



第6回 上越市新幹線駅周辺地区まちなみ検討会議

個別の施設デザインについて

～ 目 次 ～

1. これまでの検討経緯	1
2. 駅前広場及び街区公園の基本的なレイアウト	2
3. 駅周辺公共空間及び新幹線 駅舎デザインの基本的な考え方	4
4. 施設計画	
1) 東西昇降施設	5
2) 駅雁木・シェルター	7
3) ベンチ	10
5. 舗装計画	11
6. 植栽計画	13
7. サイン計画	15
8. 照明計画	17

平成 22 年 9 月 3 日

上 越 市

1.これまでの検討経緯

上越市及び駅周辺地区の状況

概況

- 気象や地形がもたらす豊かな自然環境
- 広域圏との交通ネットワーク
- 長い歴史に育まれた生活文化
- 定住人口増加や少子化対策の必要性

地域資源

- 全国レベルの知名度を誇る歴史(斐太古墳群、上杉謙信公)
- 妙高連山をはじめとする自然環境
- 雁木に代表される雪国文化、助け合いの心
- 全国区のサクラの名所(日本三大夜桜)
- 豊富な資源、先進性

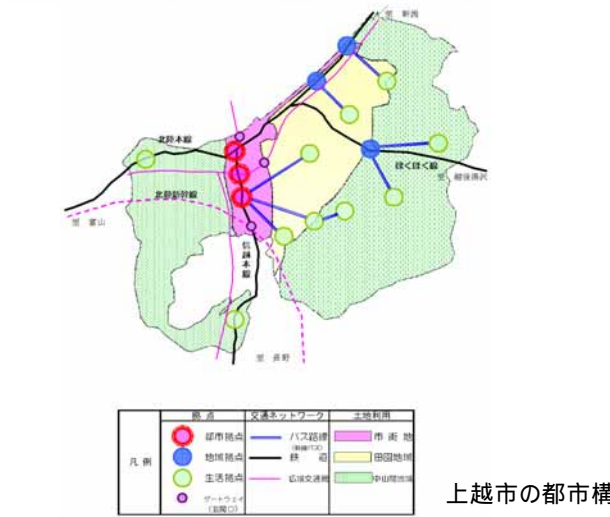
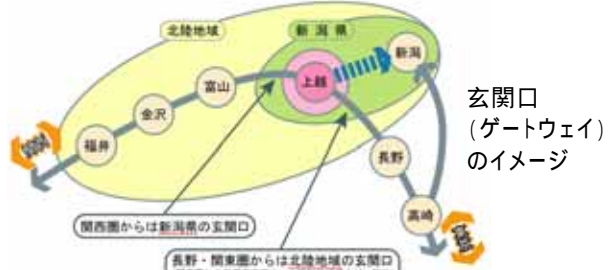
上位計画

新駅ならびに新駅周辺地区の役割

- 上越市の活性化へ寄与(玄関口、交通の結節点、観光の基点)
- ホスピタリティ提供のための利便性に加えて、環境、景観に配慮
- 直江津・高田など既成市街地との連携

上位計画における方向性

- 第5次総合計画
ゲートウェイ(玄関口): 来訪者をもてなすにふさわしい環境整備、交通施設(駅、駐車場等)の整備、良好な住環境の整備
- 上越都市計画区域マスタープラン(新潟県決定)
新しい玄関口として、商業・業務系を中心とした土地利用
- 上越市都市計画マスタープラン
「上越の新たな玄関口として、周辺の自然環境や景観にも配慮した、質の高いまちづくり」
・上越の新しい玄関口周辺地区の都市づくり
・質の高い新都市空間の形成
・環境共生型都市の形成



まちづくりビジョン(案)

新幹線新駅周辺地域の整備に関する整備目標
 ~ 上越市の新たな玄関口として、周辺の自然環境や景観にも配慮した
 質の高いまちづくりの推進 ~

まちづくりビジョン(案)
百年まちづくり ~百年先も愛される 越後百会のまちづくり~
 えちごひやくえ

- むかえる: もてなしの空間づくり
- つたえる: 地域らしさの活用
- みちびく: 地域との連携強化
- つなげる: 百年先を見据えたまちづくり

新駅東西の機能分担、及び景観形成方針



駅東西共通のデザインテーマ(地域からの要請)

→ 北陸新幹線(仮称)上越駅の整備に関する要望書(H16.4)
 (仮称)上越駅の位置づけ
 <長野・大都市とのゲートウェイ>
 テーマ
 新しい時代のまちの拠点として、ひとのための駅空間づくり
 ~地域の総合力を高める駅をめざして~
 コンセプト
 キーワード: 歴史の風格と未来
 イメージカラー: 青(紺碧)、純白、桜色、緑、黄金(稲穂)
 コンセプト: 新時代の駅「駅機能としての広場」
 駅からの眺望
 ・妙高山を望む、桜を見る

→ 北陸新幹線新駅周辺整備等に関する和田地区住民の「意識調査」に基づく要望書(H20.3)

- ・駅周辺景観: 山並み、高い建物が制限
- ・駅前広場に必要施設: 駐輪場、駐車場、融雪施設
- ・周辺に必要な公共施設: 物産センター、警察署
- ・駅舎形態: コンクリート構造と地場産木材の暖かみのある建築
- ・まちづくりに期待すること: 住み良い住宅地
- ・地場物産の紹介: 駅中施設
- ・上越のアピール: 自然景観
- ・地域のアピール: 上越米、遺跡
- ・駅名を考えるのに重んじること: 歴史、風土

→ 妙高連山の懐に抱かれた、歴史と文化の息づく“城下町駅”
 → 雪国上越の風景にとけこんだ“歴史駅”
 → 日本海と対岸交流への拠点駅

駅だけではなく、地域全体のまちなみイメージを表現したものと捉える

駅周辺にぎわいゾーン
 上越地域の新たな玄関口および地区の顔として、地区の環境と都市機能の調和を図り、緑豊かな広がりのある景観形成

西口: 自然と歴史の顔づくり
 妙高山などの豊かな自然環境や釜蓋遺跡の歴史、くらし、文化を感じさせる景観形成

東口: にぎわいの顔づくり
 上越の歴史や文化を要素としつつ、広域圏の玄関口として相應しい賑わいを感じさせる景観形成

駅前空間の整備の方向性、共通キーワード及び基本的なレイアウト

駅前空間の整備の方向性
 ~ 使いやすさ(機能)と地域らしさ(個性)との両立 ~

共通キーワード

- 上越のシンボル「さくら」
- 「和モダン」なデザイン
- 「賑わい・躍動空間」づくり
- 「ユニバーサルデザイン」な交通空間
- 地場材の利用

基本的なレイアウト

2. 駅前広場及び街区公園の基本的なレイアウト

第2回会議

まちづくりビジョン 「百年まちづくり～百年先も愛される越後百会のまちづくり～」
 まちなみ整備イメージ 西口『静』、東口『動』

えちごひやくえ

第3回会議

駅前空間の整備の方向性 使いやすさ（機能）と地域らしさ（個性）との両立

<<第4回会議>>

共通キーワード

上越のシンボル「さくら」、和モダンなデザイン、「賑わい・躍動空間」づくり、「ユニバーサルデザイン」な交通空間、地場材の利用

西口（静）

テーマ 「公園」

- ・交通広場ではなく、公園ととらえる。
- ・遺跡公園に最も近い新幹線駅という、全国に例のない特徴をいかした、ヒューマンスケールで使いやすく、ユニークな空間とする。

デザインコンセプト

- ・遺跡をイメージする「円」（曲線）
- ・穏やか、明るさ、安らぎ、軽やか、光や水などの自然

ロータリー

- ・個性 デザインコンセプト「円」を取り入れる。
- ・機能 旅館バスを集中させ、東口と機能分担する。

街区公園

- ・ロータリーの約1/3を多目的イベントスペース兼公園とする。
- ・ここを街区公園と一体に「桜の森」とし、賑わいを生み出す。

自由通路

- ・自由通路から広場に降りる階段をガラス等ですべて覆う。
- ・眺望を確保し、ゆったりと山なみを眺める憩いの空間とする。

屋根（シェルター）

- ・人が歩く動線上は基本的にすべてかける。
- ・乗り降りの際に雪や雨に濡れないよう、かけ方を工夫する。

駐車場

- ・屋根をかけるか立体駐車場とし、車の雨雪避けとする。
- ・濡れずに駅に入れるよう、動線上にシェルターを設置する。

シンボルロード

- ・遺跡へつながる「さくら回廊」とする。
- ・それぞれの交差点（遺跡の入口等）に「円」を取り入れる。

植樹

- ・雪の山なみと淡いピンクの桜によって、最も美しい上越の春の風景のひとつ（ランドスケープ）を生み出す。
- ・100年かけて育てていく、桜の風景を目指す。

東西駅前広場及び街区公園の基本的なレイアウト

東口（動）

テーマ 「雁木」

- ・170mの大屋根をかけ、日本最大の「駅雁木空間」を生み出す。
- ・上越の暮らしの知恵「雁木」を、上越地域、新潟県、北信越地域の玄関口にふさわしい堂々としたデザインとして、また雨や雪に対応できる優れた機能として取り入れる。

デザインコンセプト

- ・雁木をイメージする「線」（直線）
- ・重厚感、落ち着き、風格、シンプル、モダン、明暗のメリハリ

ロータリー

- ・個性 交通広場として機能に特化する。
- ・機能 待合タクシーを集中させ、大容量の交通処理を行う。南を一般交通にし、公共交通との混同を避ける。

街区公園

- ・多目的なイベントスペースとし、広場と一体の大屋根をかける。
- ・冬季は雪を楽しむ空間、排雪スペース等として利用する。

自由通路

- ・自由通路から広場に降りる階段をすべて構造物で覆う。
- ・エスカレーター等で移動する間も濡れないようにする。

屋根（シェルター）

- ・人が歩く動線上に、メインの雁木の大屋根をかける。
- ・乗り降りの際に雪や雨に濡れないよう、かけ方を工夫する。
- ・冬は、雁木のこげ茶と雪の白が調和し、雪を見て楽しめる。

駐車場

- ・高架下利用を想定し、現時点では屋根を想定しないが、濡れずに駅に入れるよう動線上にシェルターを設置する。

シンボルロード

- ・高田市街地、その先へとつながる「さくらゲート」とする。

植樹

- ・雁木のこげ茶と淡いピンクの桜によって、ほっとする空間を生み出す。（商業地の広告など、目隠しの役目も果たす）

西口のイメージ「静」

まちづくり全体のビジョン「百年まちづくり」

東口のイメージ「動」

“円”のモチーフと公園的整備
送迎用バスは西口に集中

釜蓋遺跡の環濠から、“円”をモチーフとして取り込んだ空間づくりとし、多くの植栽を配した公園的な空間形成を図る。妙高方面の観光地からの送迎用バスは、距離・時間・混雑等の関係から西口利用が想定される。このため、送迎用バス用の駐車帯を西口に設け、東口には基本的に乗り入れさせない。ロータリーから直接公共駐車場に入れるが、動線の混乱を避けるため、駐車帯からロータリーに出ることはできない。

釜蓋遺跡の供用(新幹線と同時)

ガイダンス施設を整備予定

修景・イベントスペースとして活用

ロータリー面積を最小限に抑え、余地を公園と一体的に整備。桜を植樹し、100年かけてつくるまちなみのシンボリックな場所として位置づけ。五智、春日山、妙高など観光スポットが集中し、在来駅の乗口でもあるため、イベント開催頻度が相対的に高い見込み。地形から回遊性あるイベント開催が可能。2F自由通路レベルからは妙高山が展望できる。

展望・休憩スペースとして活用

妙高山～南葉山の山並みを展望できるスペースを2F自由通路レベルに確保。同スペースに在来線乗り換え時間を過ごすための休憩機能を設ける。

公園はイベントスペースとして活用

約2,000㎡。駅前広場からつながる駅雁木による空間の一体的利用
団体客利用、イベント等に対応したスペースを確保

西側とは供用時期のずれ

新幹線駅に在来駅を併設させた後、移設前の在来線の撤去工事を行うため、当ブロック以外、土地の供用が西側のH26頃より遅れる(おおむね平成29年頃)

ビジネス客利用は東口がメインと考えられるが、東側への商業機能の配置は西側より数年遅れる見込み

“駅雁木”による上越らしさ
交通機能に特化

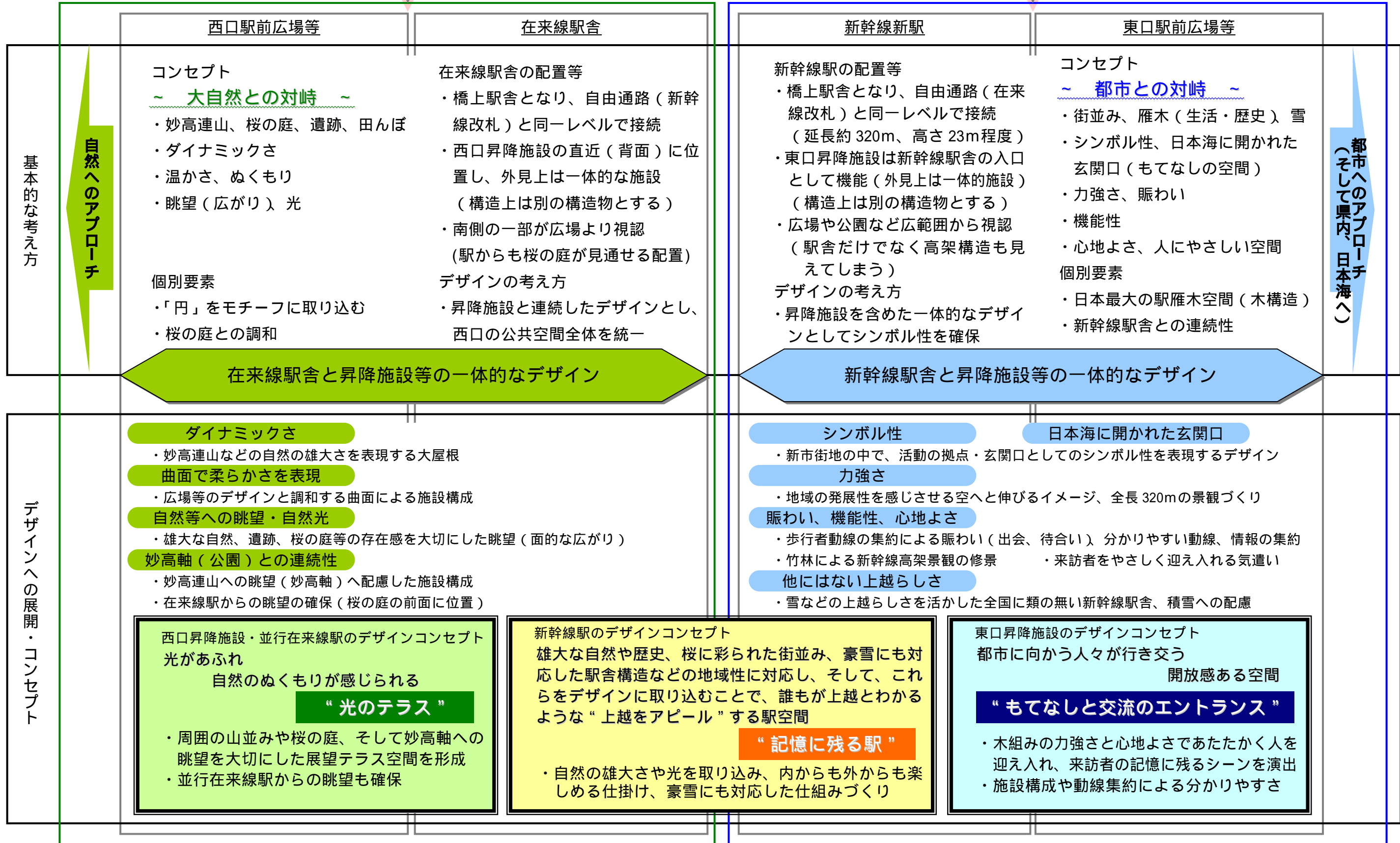
交通空間の中で上越らしさの象徴としての“駅雁木”空間を創出する。周辺道路網等との連続性等を考慮し交通機能に特化させる。交通の錯綜を回避するため、奥(北側)をタクシー・路線バス、手前(南側)を一般車に配置

妙高、春日山、五智方面

R18

3. 駅周辺公共空間及び新幹線
駅舎デザインの基本的な考え方

新幹線駅周辺地区全体を統一する考え方
~上越のシンボル「さくら」、「和モダン」なデザイン、「賑わい・躍動空間」づくり、
「ユニバーサルデザイン」な交通空間、地場材の活用~



4. 施設計画

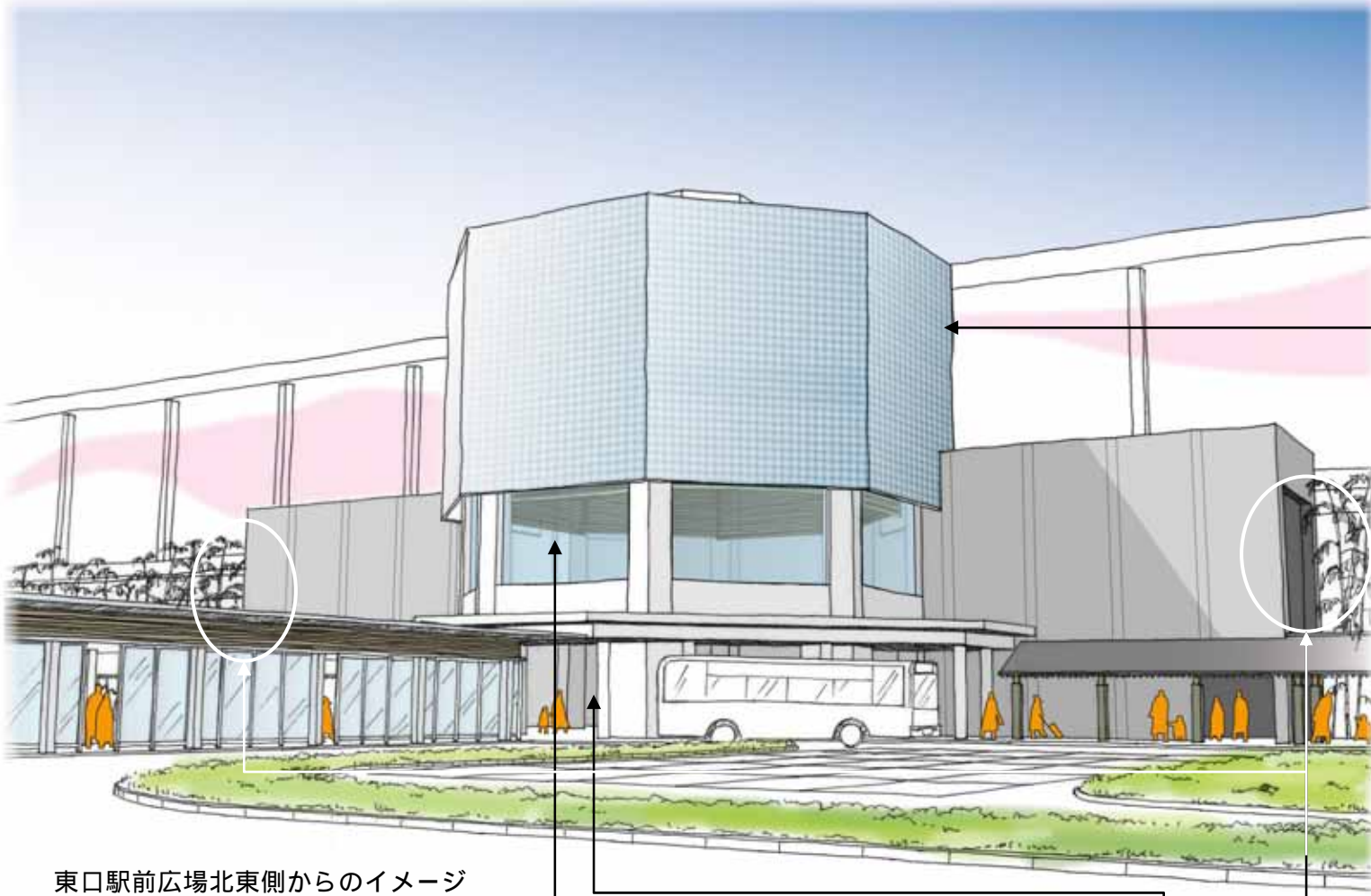
1) 東西昇降施設

東口昇降施設

ドーム上部にはガラスブロックを用い、昼間は雪の結晶を、夜間は灯笼や行灯を想像させる印象的な空間づくりを行う

ドーム内部は地場の杉材を用いた木組みにより、記憶に残る空間となるようなシンボリックな内部空間とする
階段やエスカレーター部はドーム部分や新幹線駅舎を強調させるため、シンプルな壁面で仕上げ、またガラス面を北側及び南側のみに配置することで、自由通路からの印象的な駅雁木・竹林を演出する

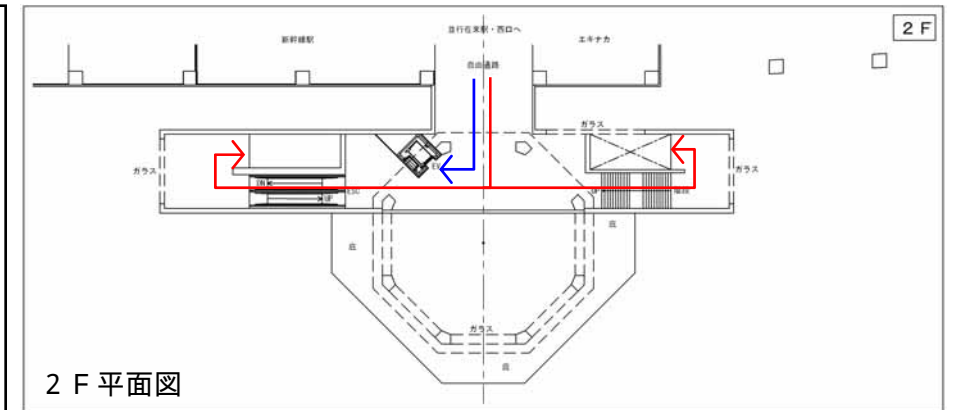
外壁等は無彩色とし、ドーム空間や背後の新幹線駅舎のデザイン、人の活動する風景を引き立たせる



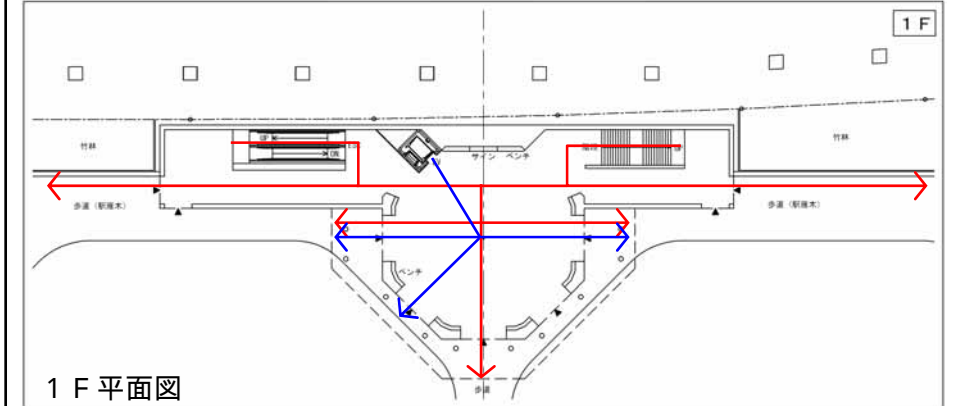
東口駅前広場北東側からのイメージ



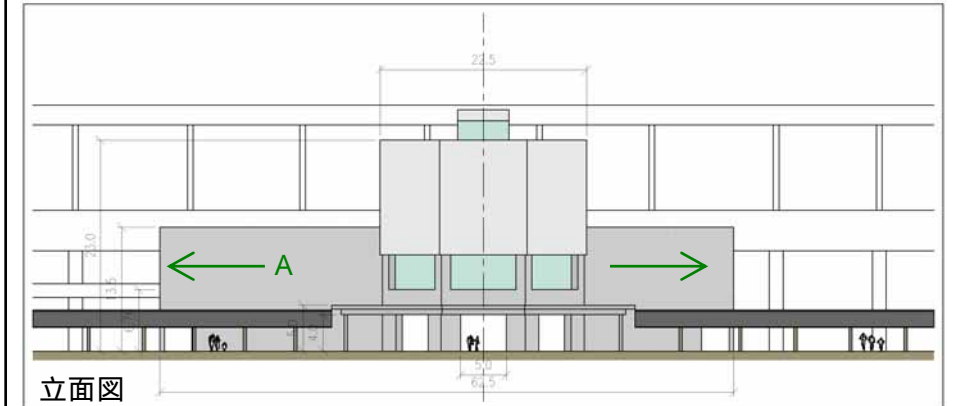
ガラスブロック
昼間は雪の結晶を、夜は
行灯を思われる印象的な空間づくり



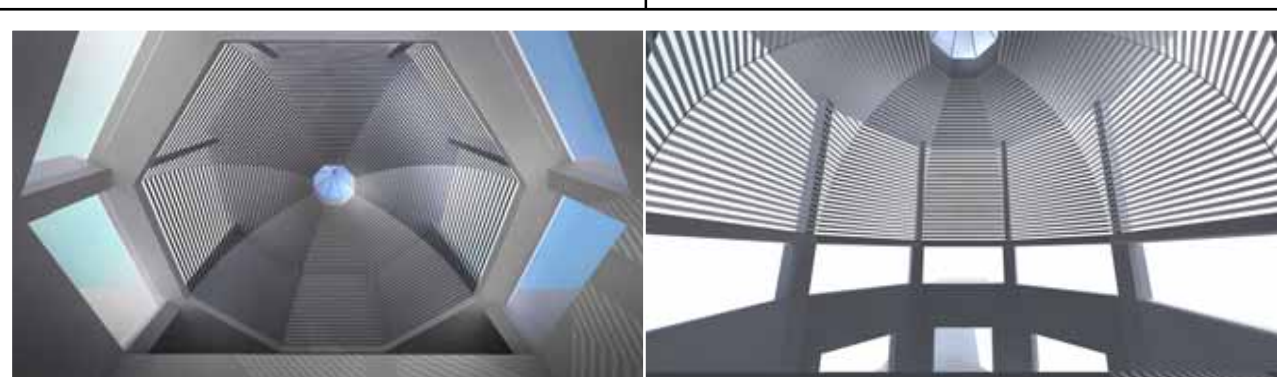
2 F 平面図



1 F 平面図



立面図

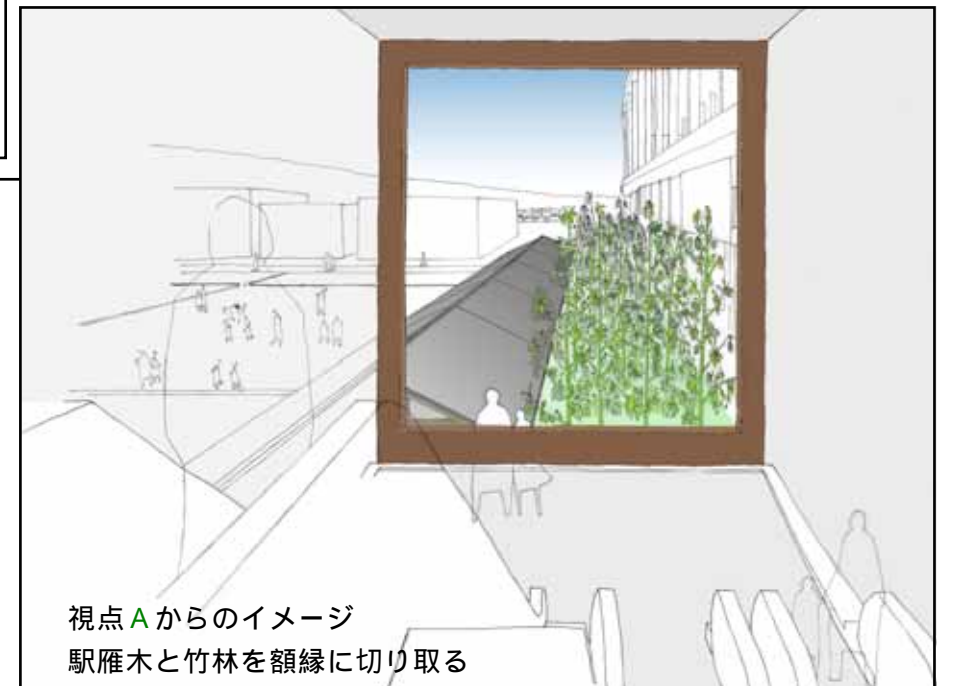


ドームの内部イメージ
(1階レベルより)

ドームの内部イメージ
(2階自由通路レベルより)



ドーム1階部分のイメージ
動線の集約による、賑わいの空間づくり

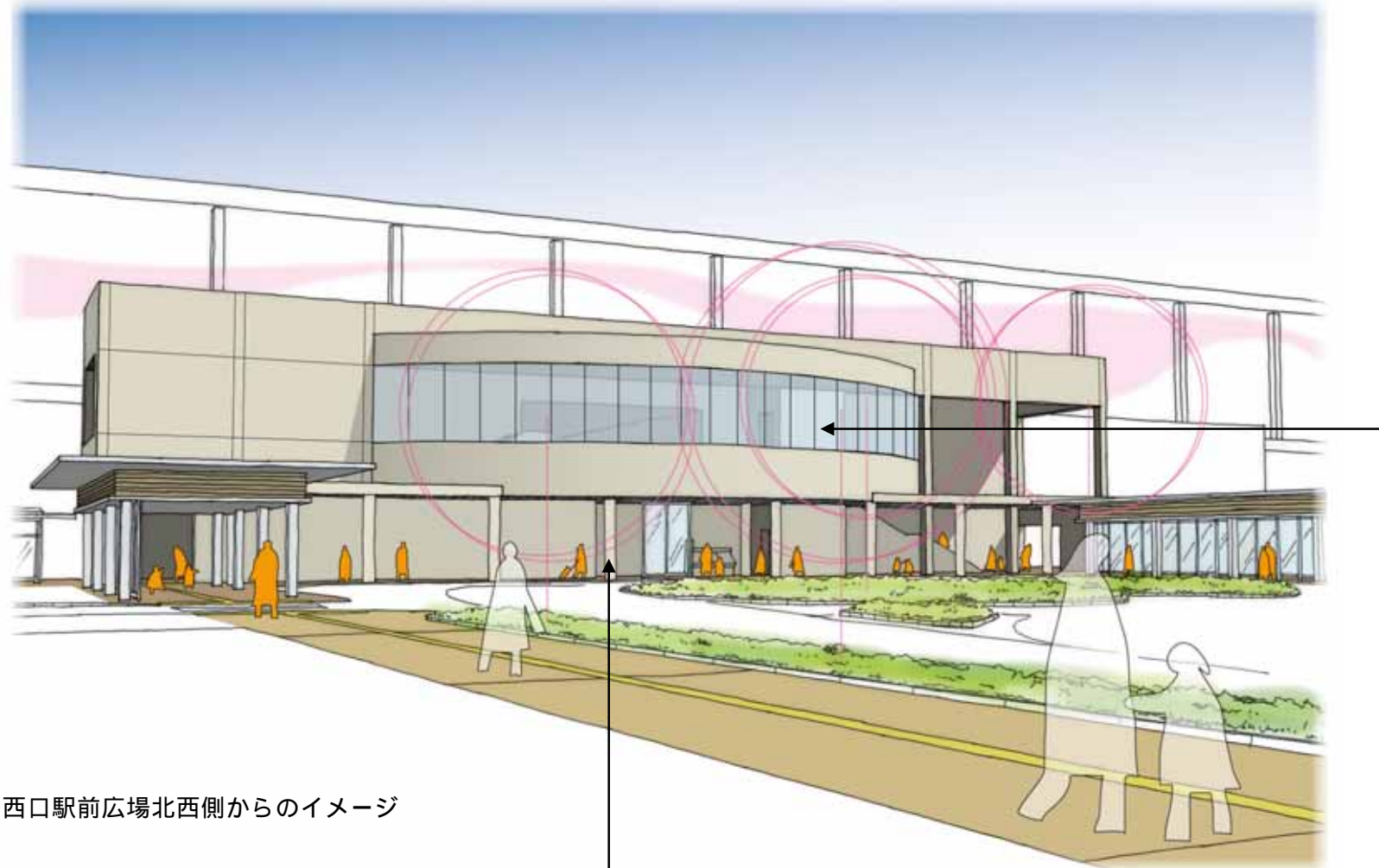


視点Aからのイメージ
駅雁木と竹林を額縁に切り取る

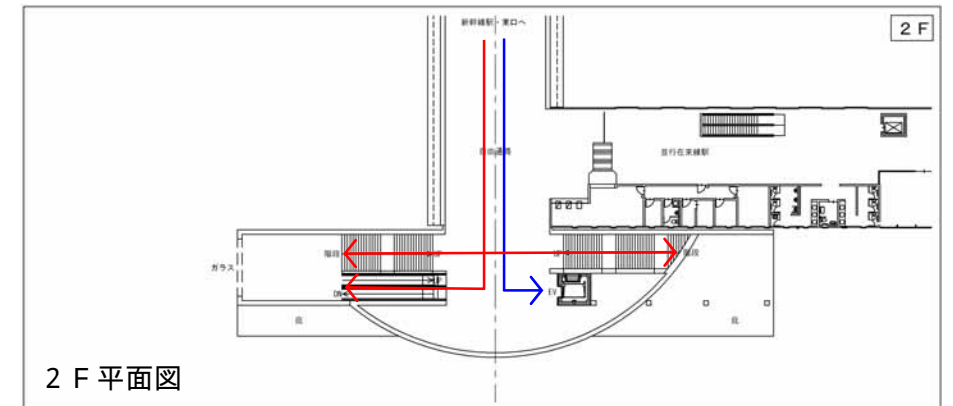
西口昇降施設

妙高山の山並み、広場の桜等への眺望の提供を主眼施設構成とし、広場やイベント空間とも調和する曲線状のテラス空間を確保する
 テラス空間全面はガラス張りとし、眺望の提供だけでなく、施設内に自然光を取り入れ、新幹線改札から西口方面へ来訪者を誘導する
 テラス下部の1階部分は、一部を待合い空間として利用し、ベンチや総合案内サインの配置、冬期の風雪対策としてガラススクリーンを配置する

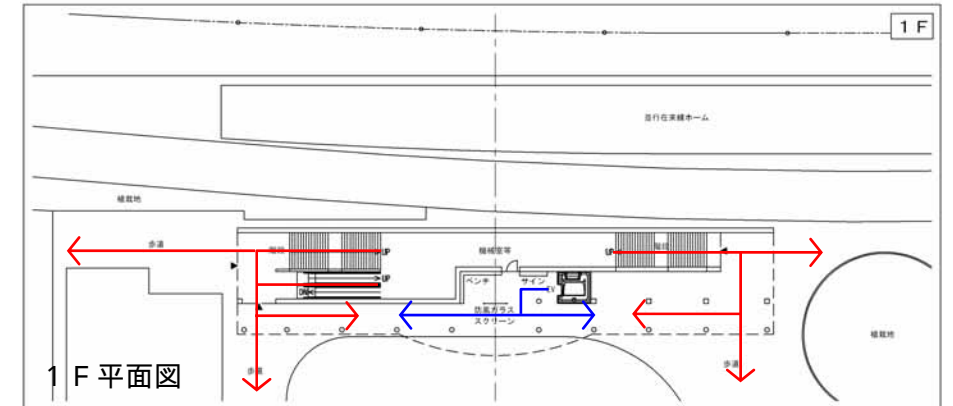
1階天井部分には杉板を用い、後述するシェルターとともに、利用者に対して優しい空間を提供する
 外壁等は舗装材などと合わせてアースカラーとし、サクラの植栽や周囲の自然（山並み）との調和を図る



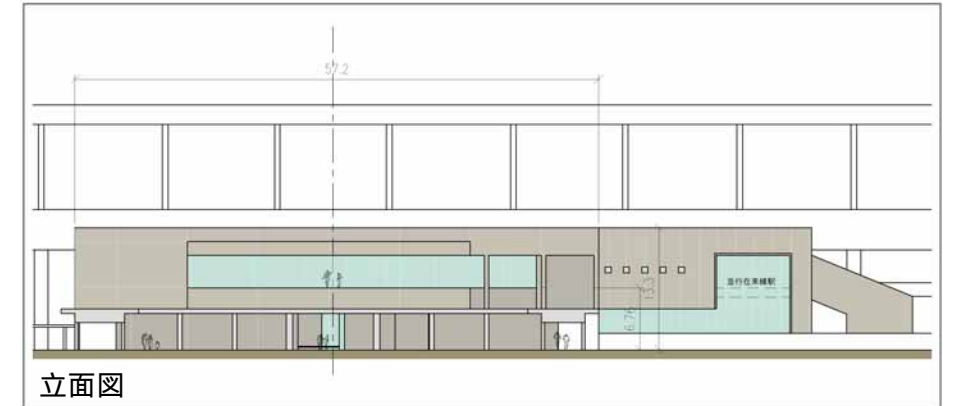
西口駅前広場北西側からのイメージ



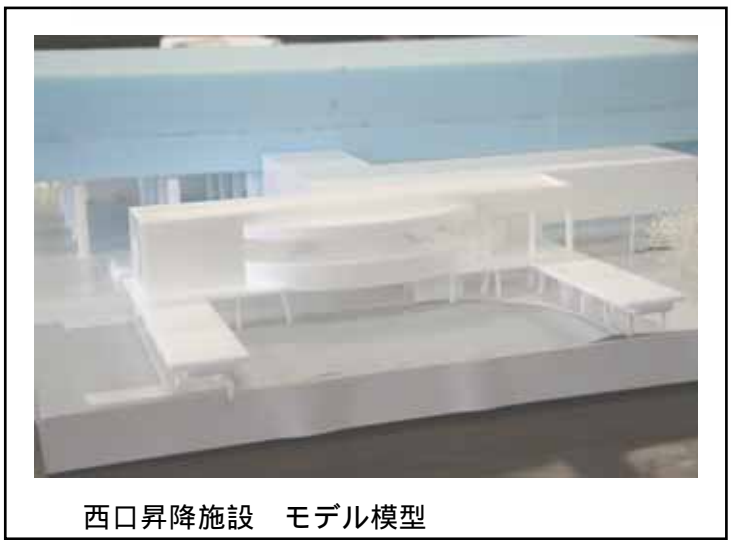
2 F 平面図



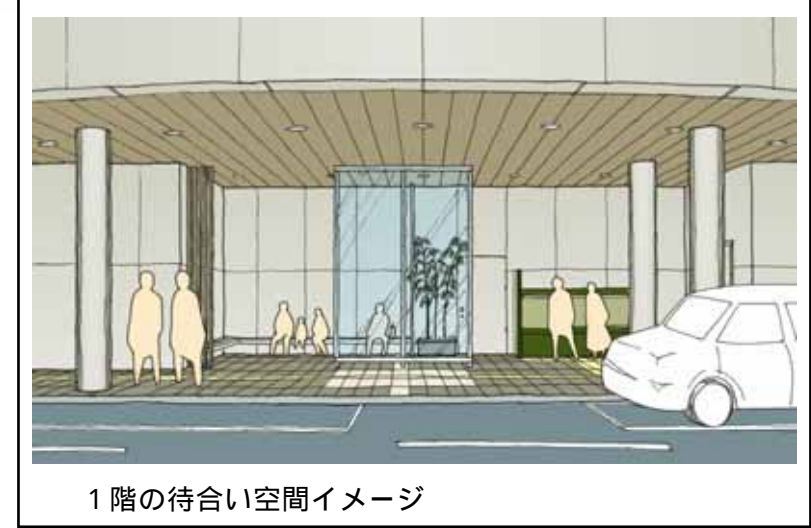
1 F 平面図



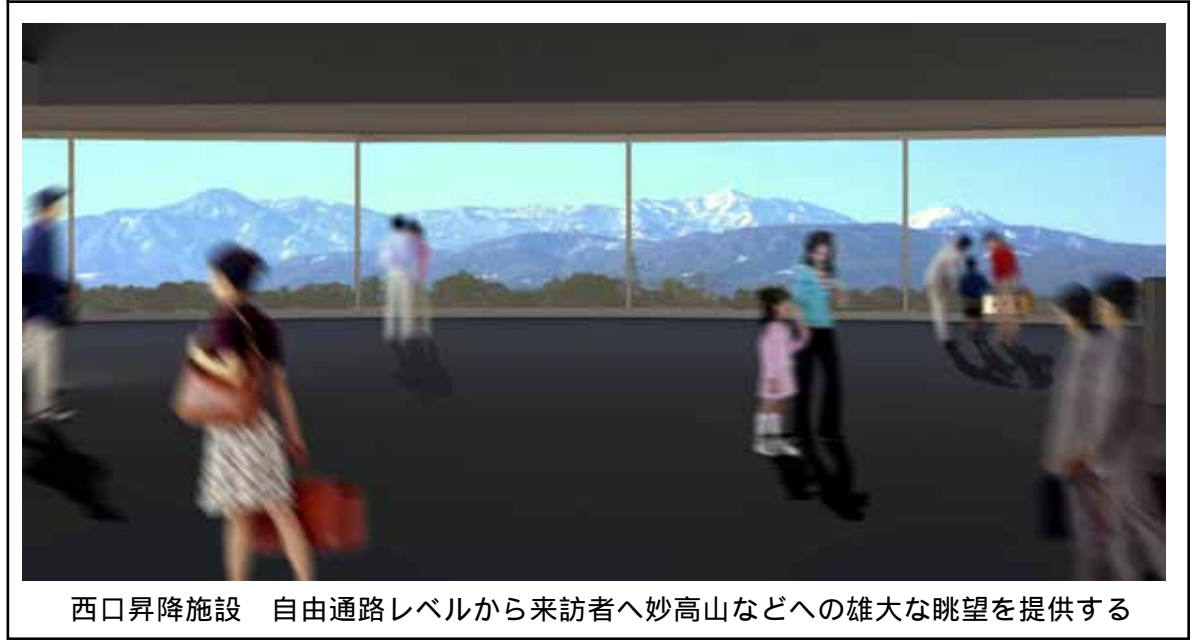
立面図



西口昇降施設 モデル模型



1階の待合い空間イメージ



西口昇降施設 自由通路レベルから来訪者へ妙高山などへの雄大な眺望を提供する

施設計画平面図 S=1/1,000

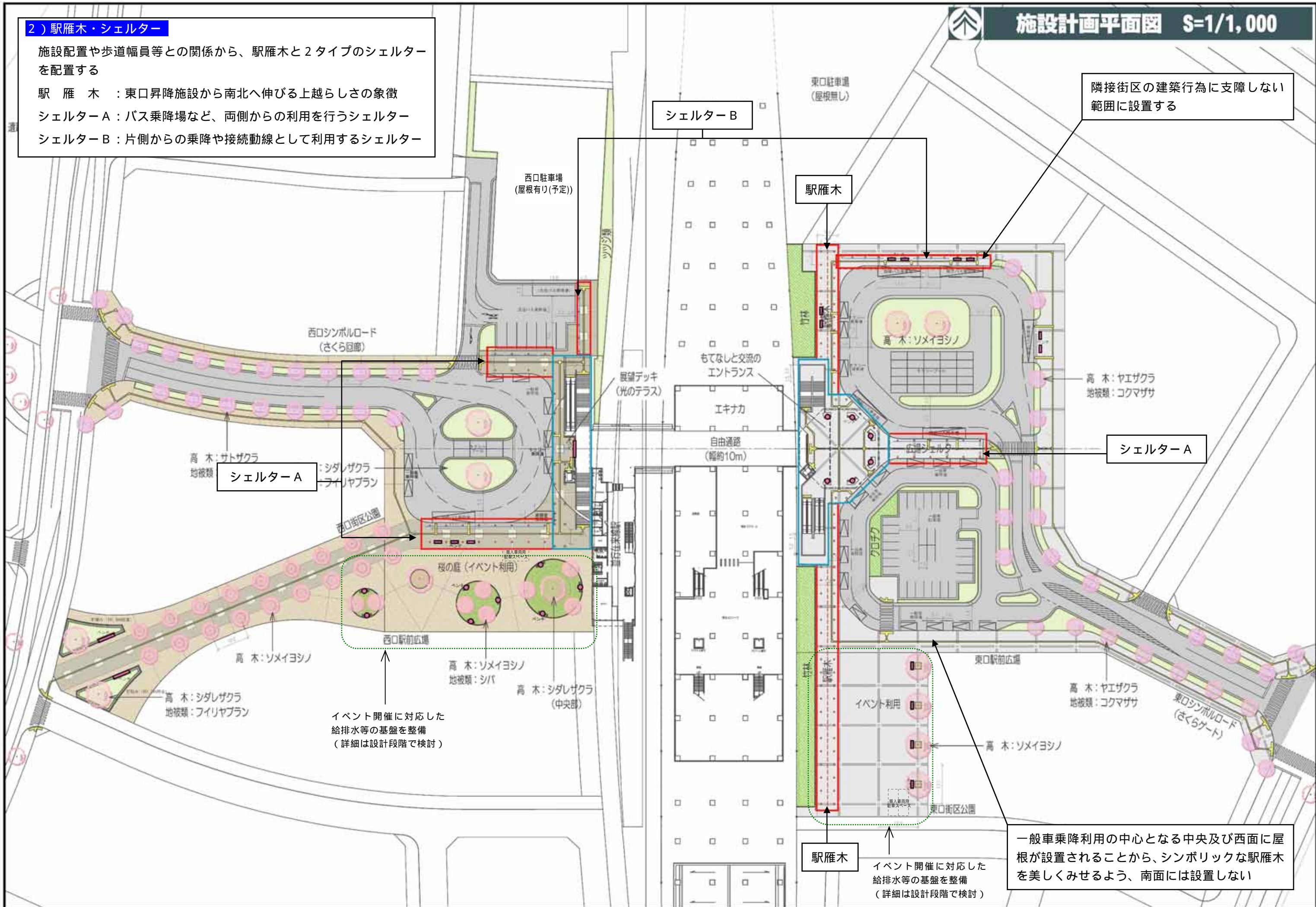
2) 駅雁木・シェルター

施設配置や歩道幅員等との関係から、駅雁木と2タイプのシェルターを配置する

駅 雁 木 : 東口昇降施設から南北へ伸びる上越らしさの象徴

シェルターA : バス乗降場など、両側からの利用を行うシェルター

シェルターB : 片側からの乗降や接続動線として利用するシェルター





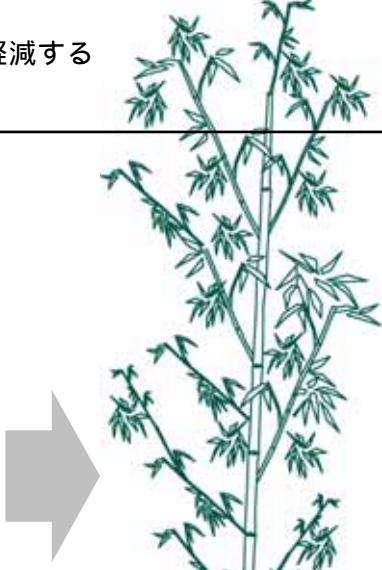
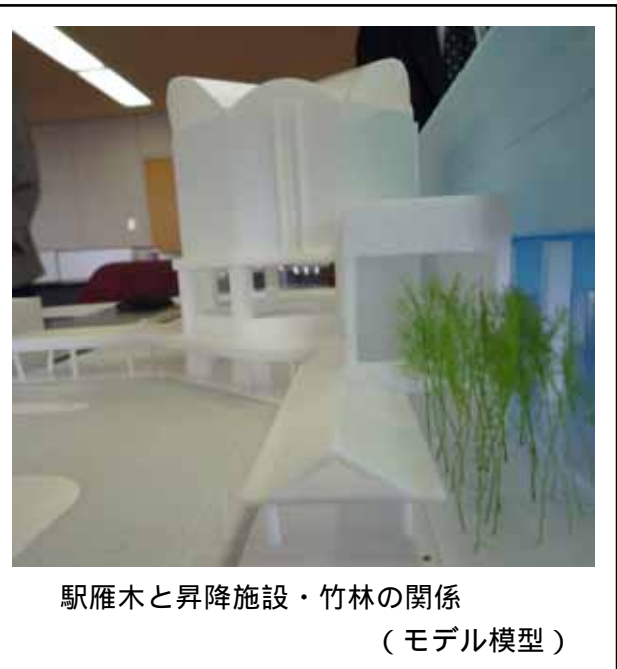
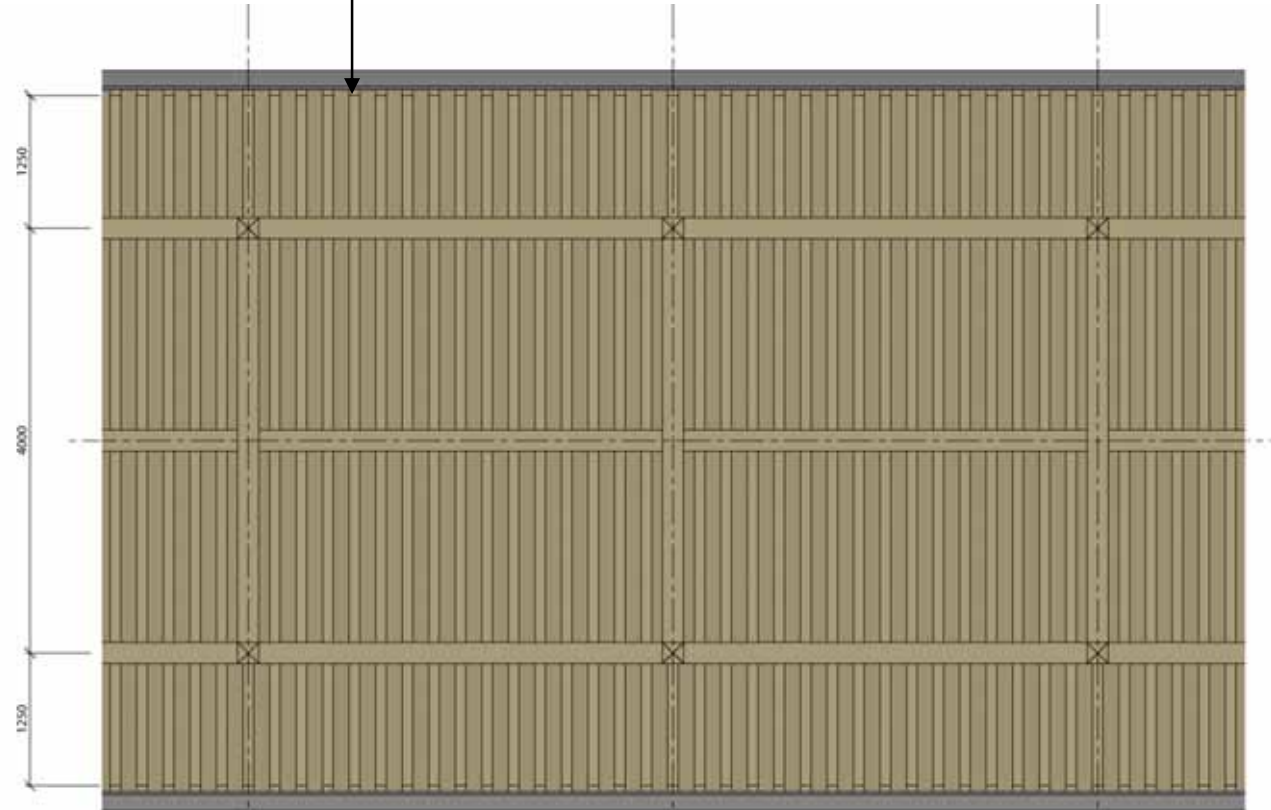
駅雁木の内部イメージ

- ・長さを特徴とする駅雁木は、木で構成し、木材による暖かみや繊細なイメージを形成する
- ・シルバーの金属屋根により見た目の重さを軽減する
- ・照明を設置し、垂木の繊細さを映し出す

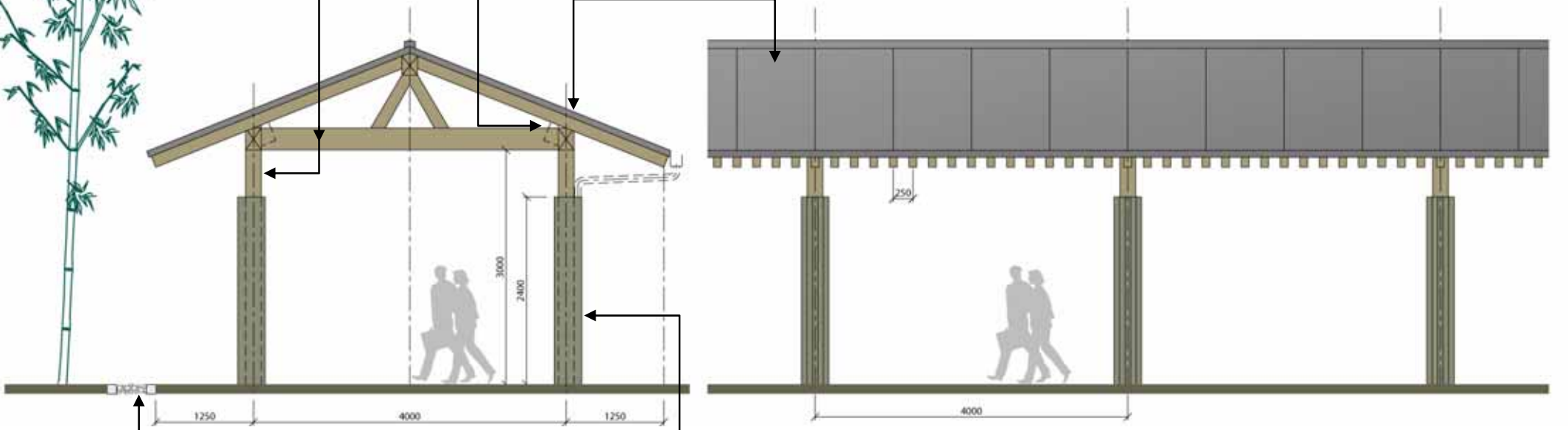
シルバーの金属屋根により、長大な施設の屋根面の重みを軽減させ、広場の中での特徴づけを行う



垂木を 250mm ピッチで配置し、繊細なイメージをつくる

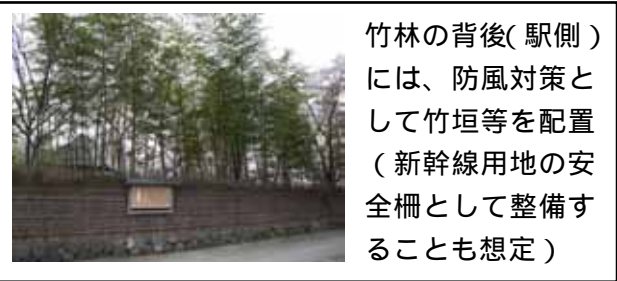


木の集成材



雨水処理の玉砂利

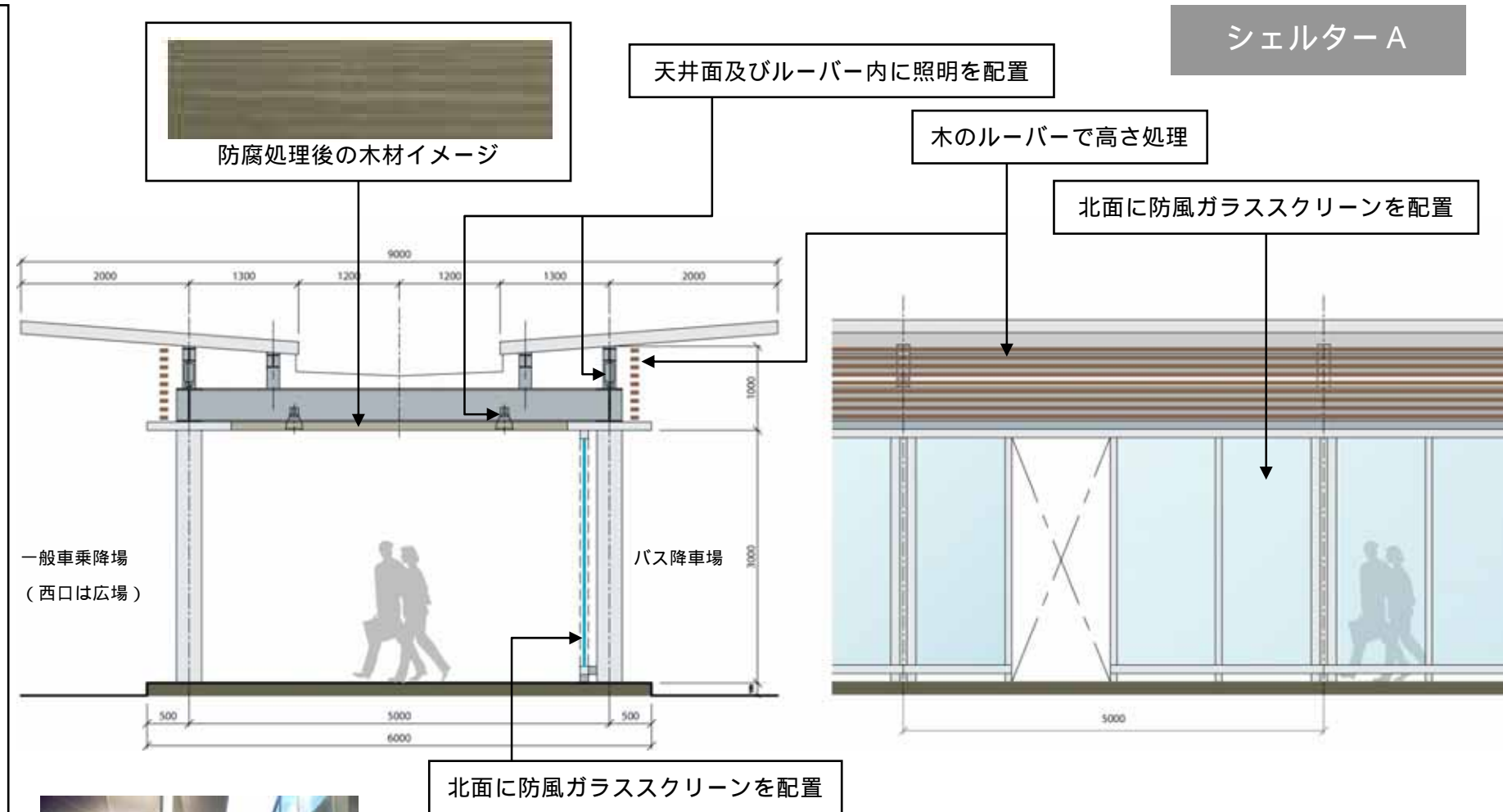
柱は集成材を、下部には雨樋を処理するための化粧材を設置





シェルター A 内部イメージ

- ・天井面に杉板（防腐処理）を使用し、地域性や暖かみのある空間を形成する
- ・対象（人、車）を考慮した2段屋根とし、北面には防風ガラススクリーンを配置
- ・屋根の高低差処理を兼ねた木材のルーバーを配し、天井面との調和を図る

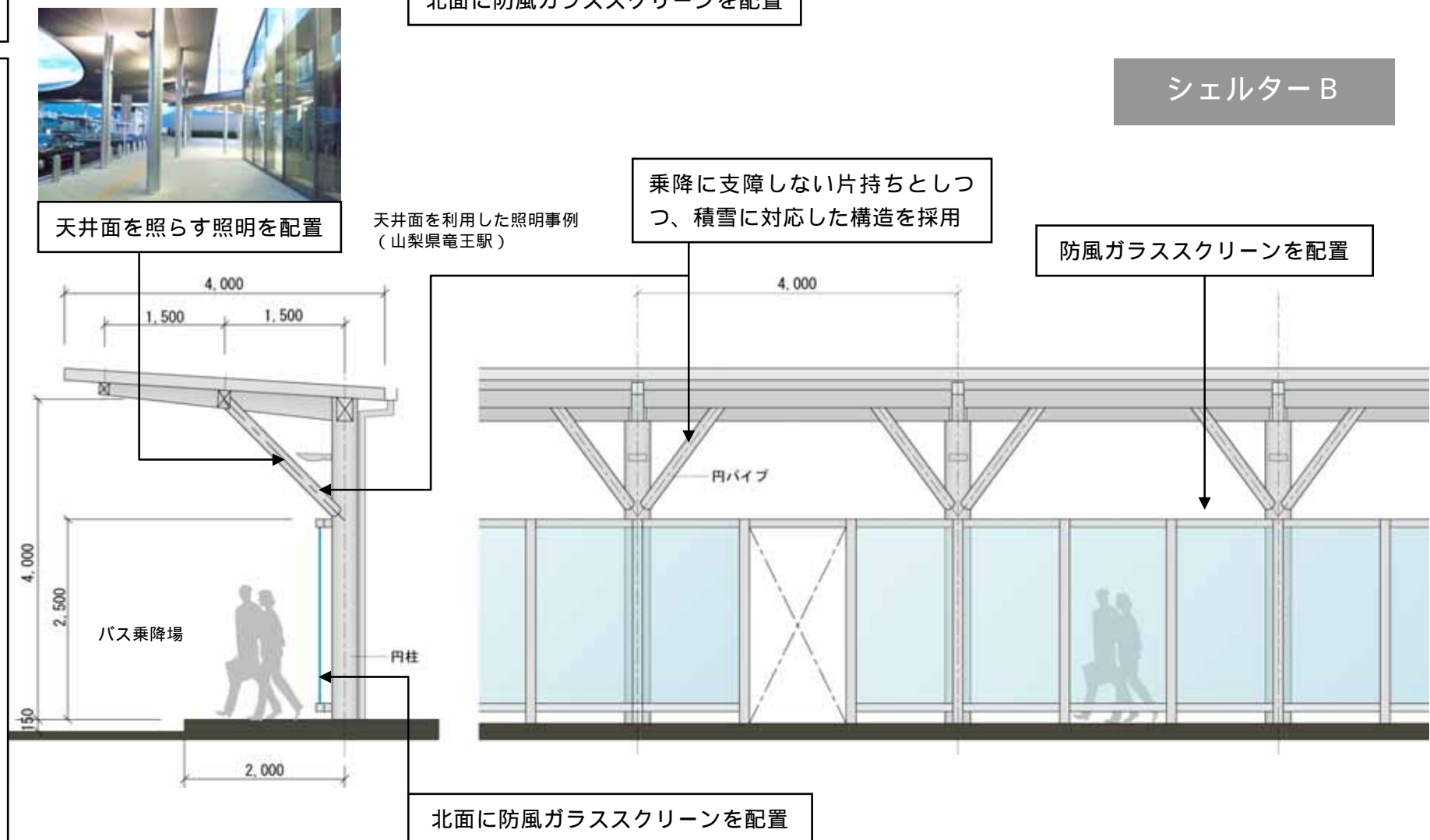


シェルター A



シェルター B 内部イメージ

- ・バス乗降時に雨に濡れない片持ち形状（積雪荷重への対応）
- ・北側に防風スクリーンを配置
- ・歩車道へ灯りを広げるため、天井面を照らす照明を配置



シェルター B

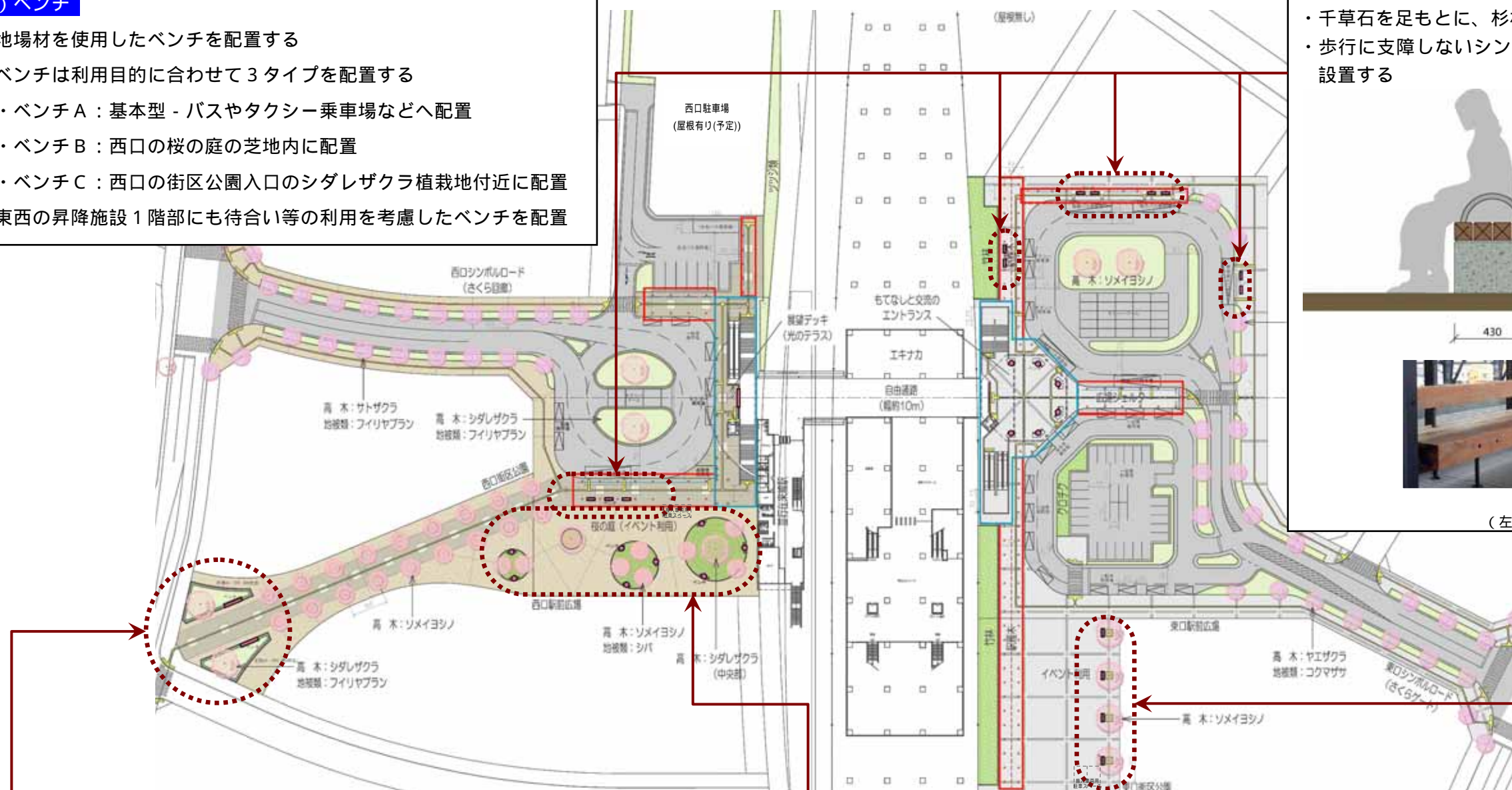
ベンチ

3) ベンチ

地場材を使用したベンチを配置する

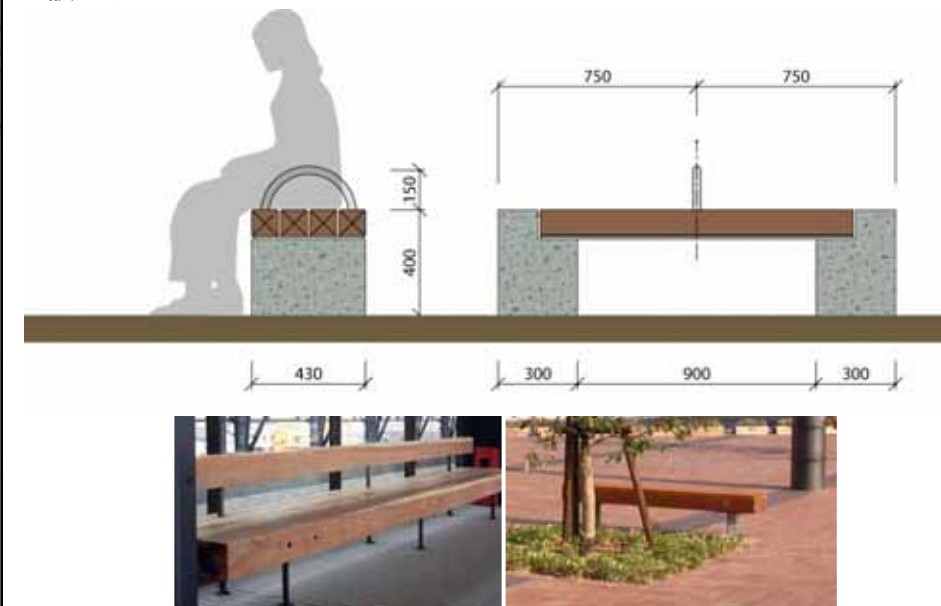
ベンチは利用目的に合わせて3タイプを配置する

- ・ベンチA：基本型 - バスやタクシー乗車場などへ配置
 - ・ベンチB：西口の桜の庭の芝地内に配置
 - ・ベンチC：西口の街区公園入口のシダレザクラ植栽地付近に配置
- 東西の昇降施設1階部にも待合い等の利用を考慮したベンチを配置



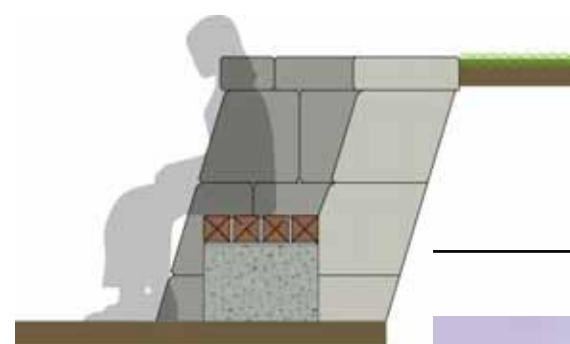
ベンチA姿図

- ・千草石を足もとに、杉材を座面に用い、地域性を演出する
- ・歩行に支障しないシンプルな形状とし、高齢者利用に配慮した手摺りを設置する



地場の木材を使用したベンチ事例
(左：宮崎県日向市、右：高知県高知駅)

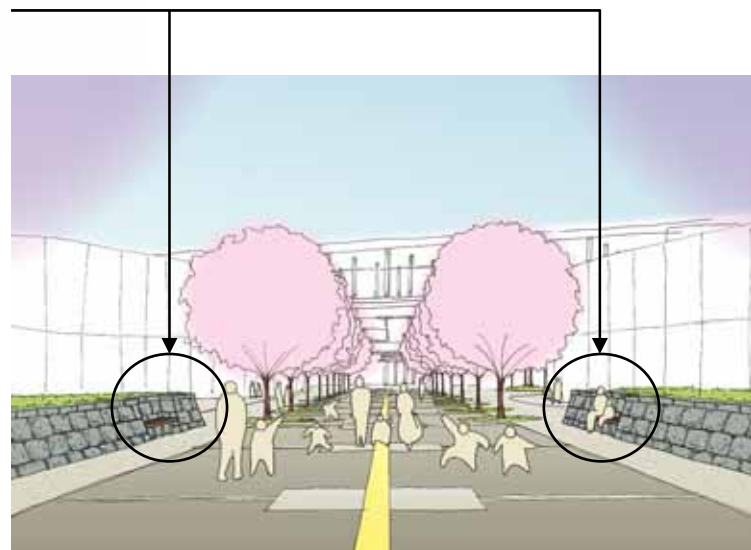
ベンチC断面図・イメージ図



街区公園のゲート性を高めるため、柴石の石積みによる石垣を設け、上越らしさを演出し、一部にベンチを配置する



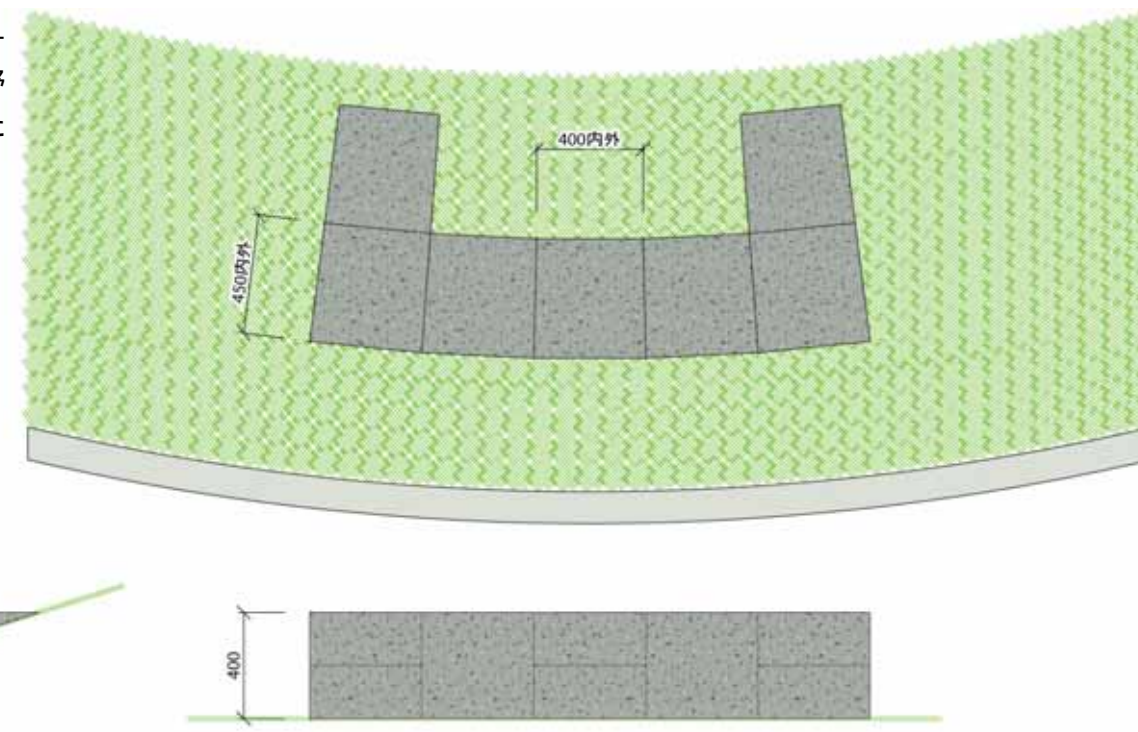
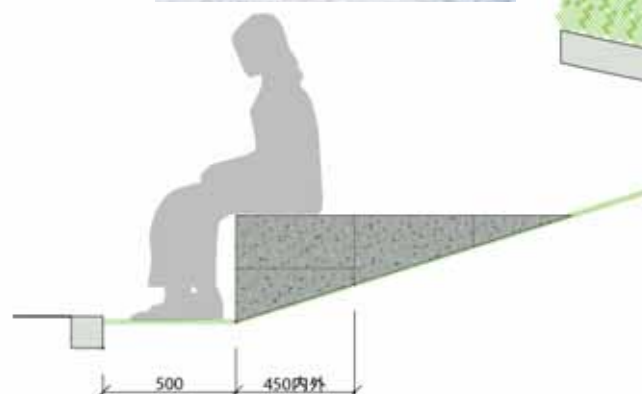
柴石の石垣



ベンチB姿図

桜の庭内の植栽地は緩やかな築山とし、一部が築山に埋まるように千草石やくびき野石(大光寺石・中山石・切越石)を用いたベンチを配置する。

千草石のモニュメント



5. 舗装計画

西口：アースカラー系

周辺の自然環境との調和を考慮し、アースカラー系の舗装材で全体を統一する
 人の活動や桜が映えるよう、シンプルな舗装パターンとし、妙高軸を強調するような配色とする
 妙高軸上は、シンプルな中にリズム感を出すよう、植栽ピッチと合わせたパターンを配置

東口：無彩色（グレー系）

周辺の都市環境との調和や、ドーム空間のシンボル製を高めるため、無彩色の舗装材で全体を統一する
 駅舎木が映えるよう、支柱間隔に合わせたシンプルなグリッドパターンとし、ドーム中央は放射状パターンによりドームの中心製を表現する
 グリッド中央には、桜を意識し、無彩色と調和する落ち着いた桜色（灰桜）を配置する

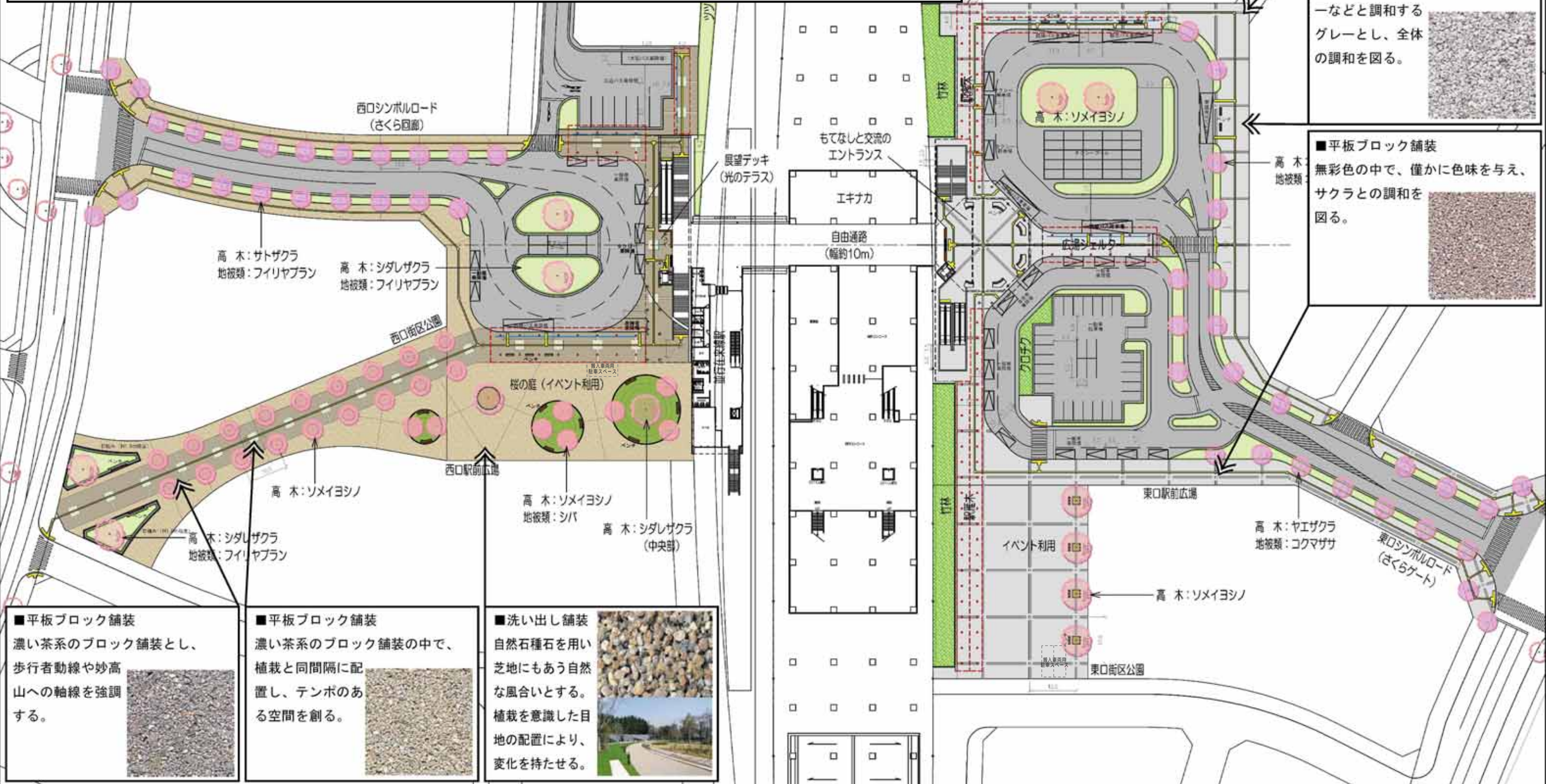
共通事項
 視覚障害者用誘導ブロックを舗装パターンに取り込み、全体の調和を図る
 凍結やバリアフリー化に配慮し、透水性の舗装材を使用する
 側溝蓋などについては、杖や車いすのタイヤの落ち込みを防止する構造とするなど、各種施設はUD指針に配慮した構造とする

舗装計画平面図 S=1/1,000

■平板ブロック舗装
 雁木などの柱ピッチに合わせて濃いグレーの舗装材を配置し、グリッドを形成することで白味の多い空間を引き締める。

■平板ブロックまたは洗い出し舗装
 ベースカラーは、ドームやシェルターなどと調和するグレーとし、全体の調和を図る。

■平板ブロック舗装
 無彩色の中で、僅かに色味を与え、桜との調和を図る。



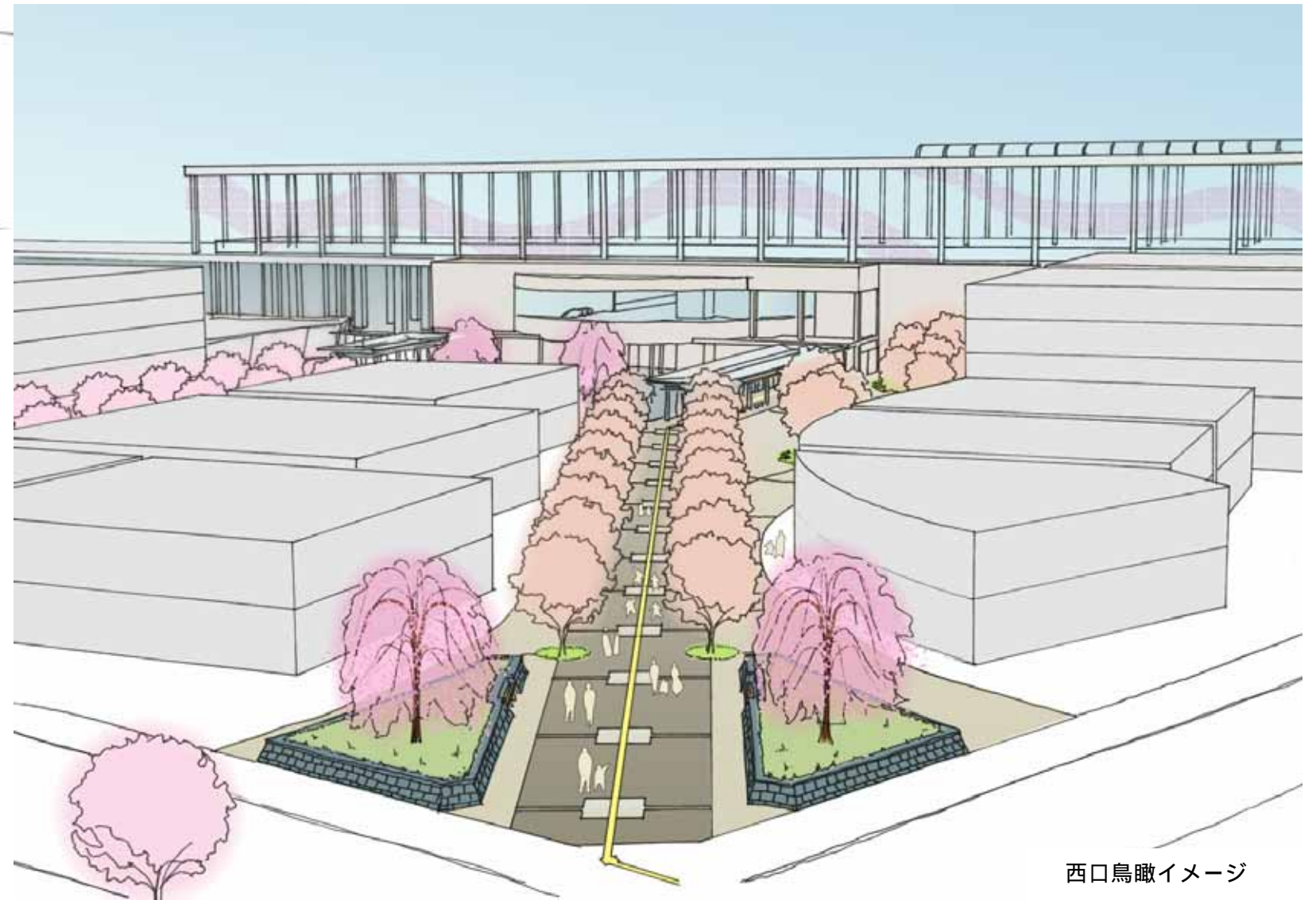
■平板ブロック舗装
 濃い茶系のブロック舗装とし、歩行者動線や妙高山への軸線を強調する。

■平板ブロック舗装
 濃い茶系のブロック舗装の中で、植栽と同間隔に配置し、テンポのある空間を創る。

■洗い出し舗装
 自然石種石を用い芝地にもあう自然な風合いとする。植栽を意識した目地の配置により、変化を持たせる。

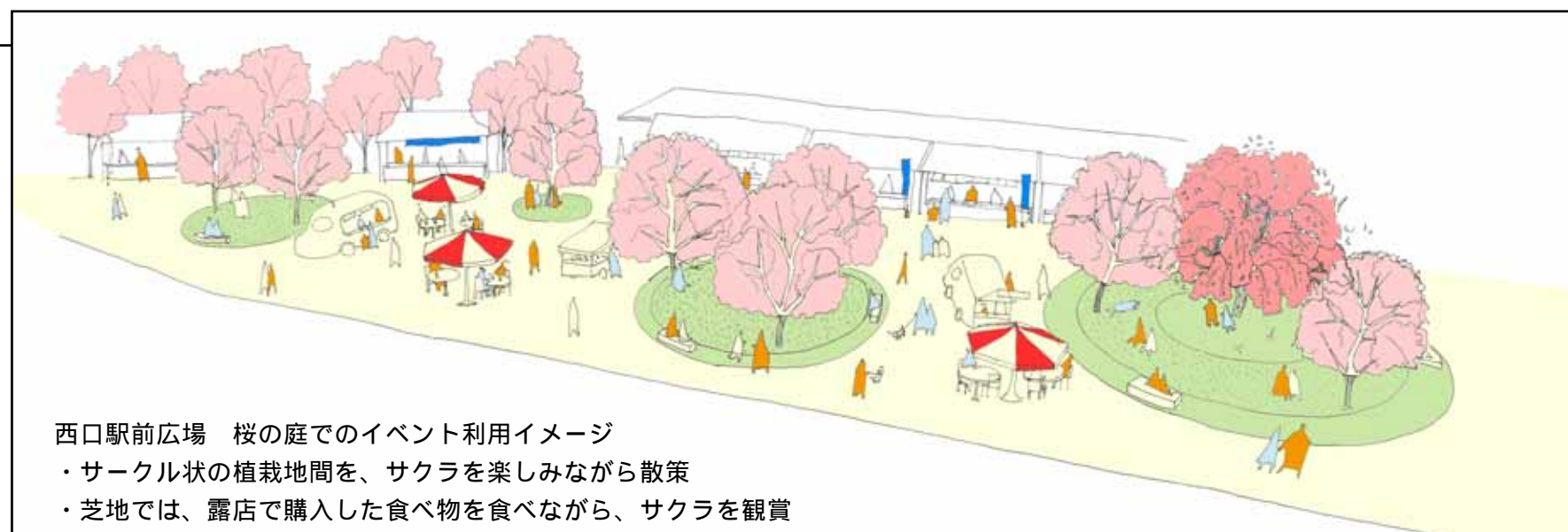
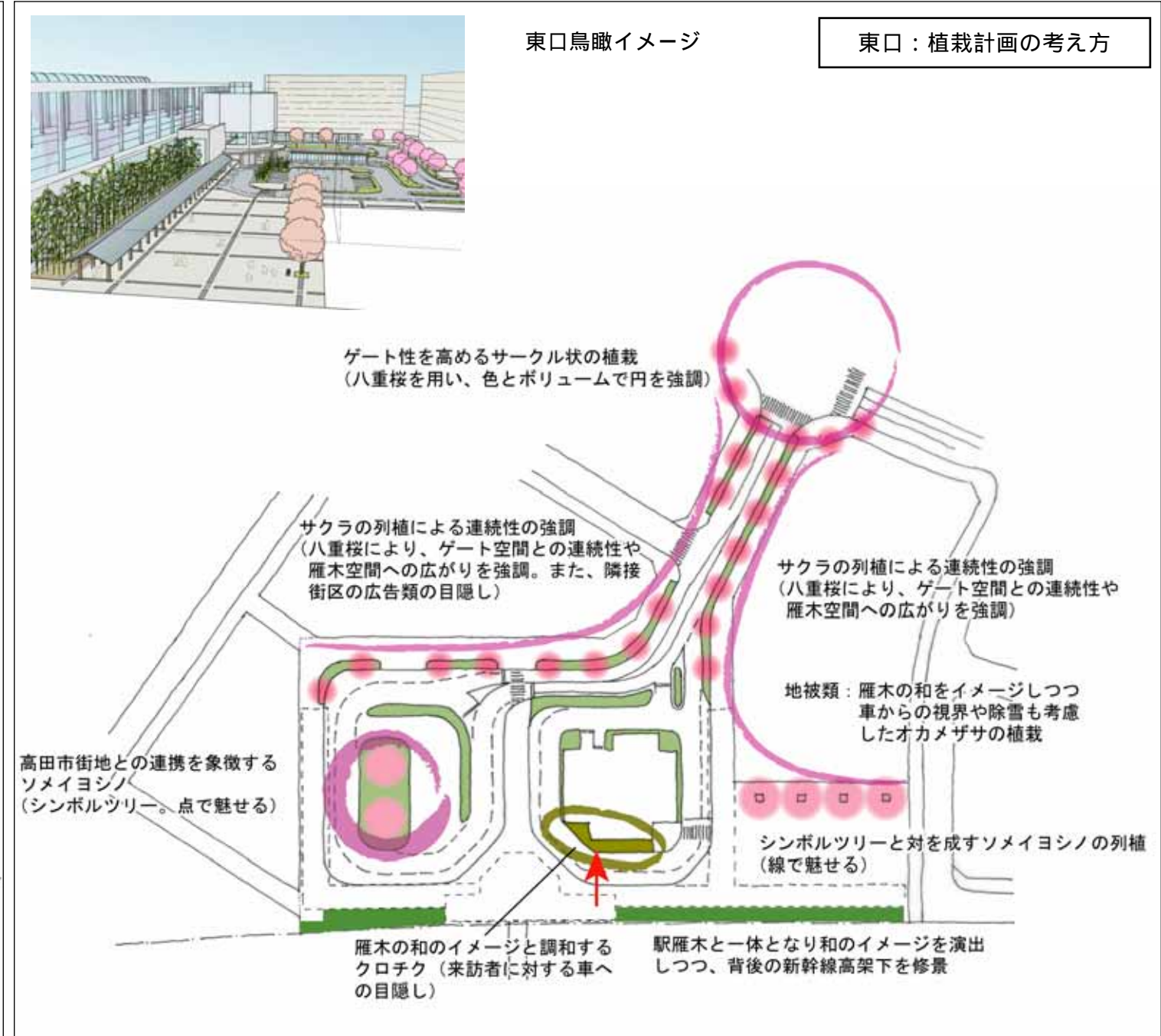
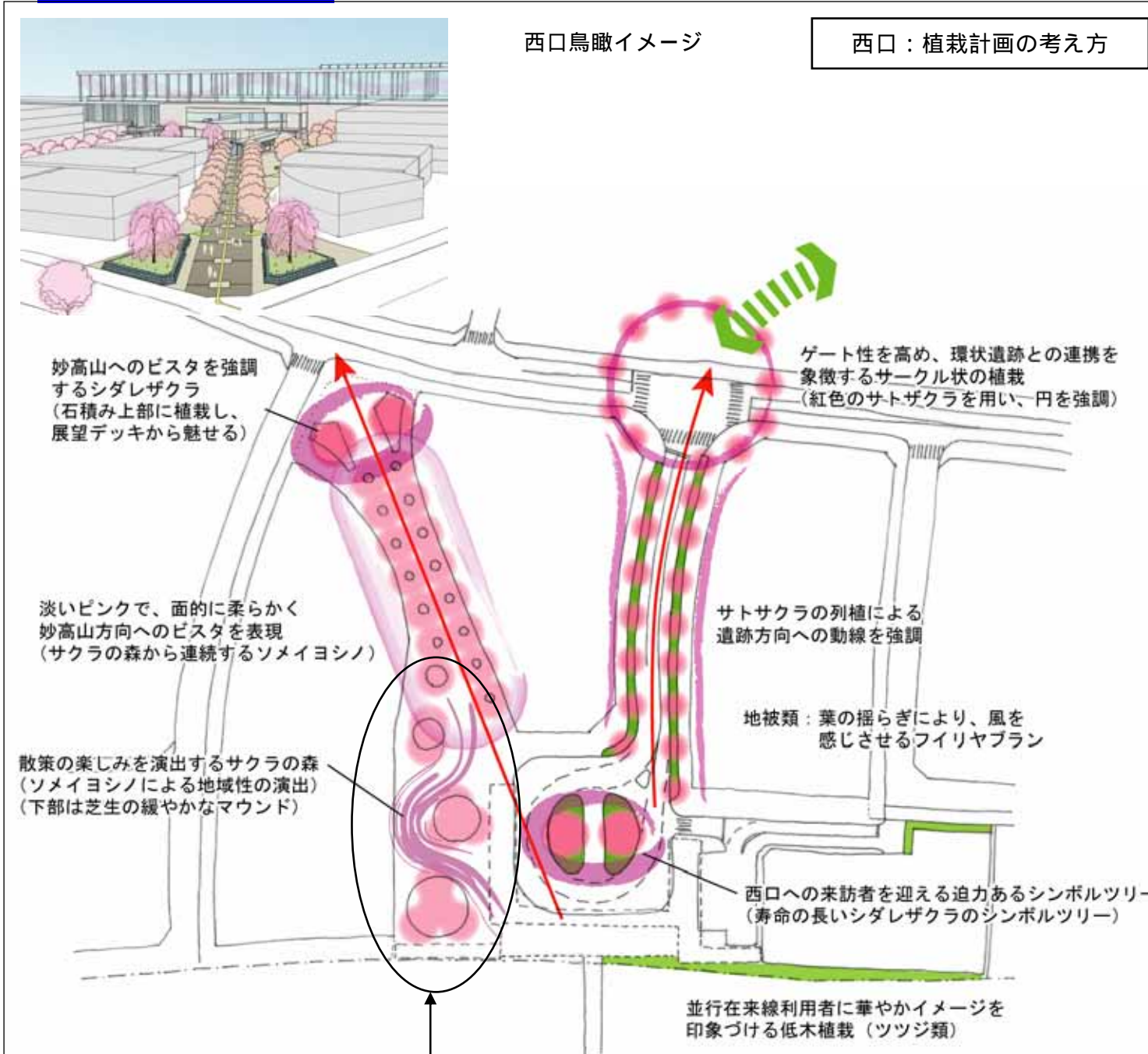


東口鳥瞰イメージ



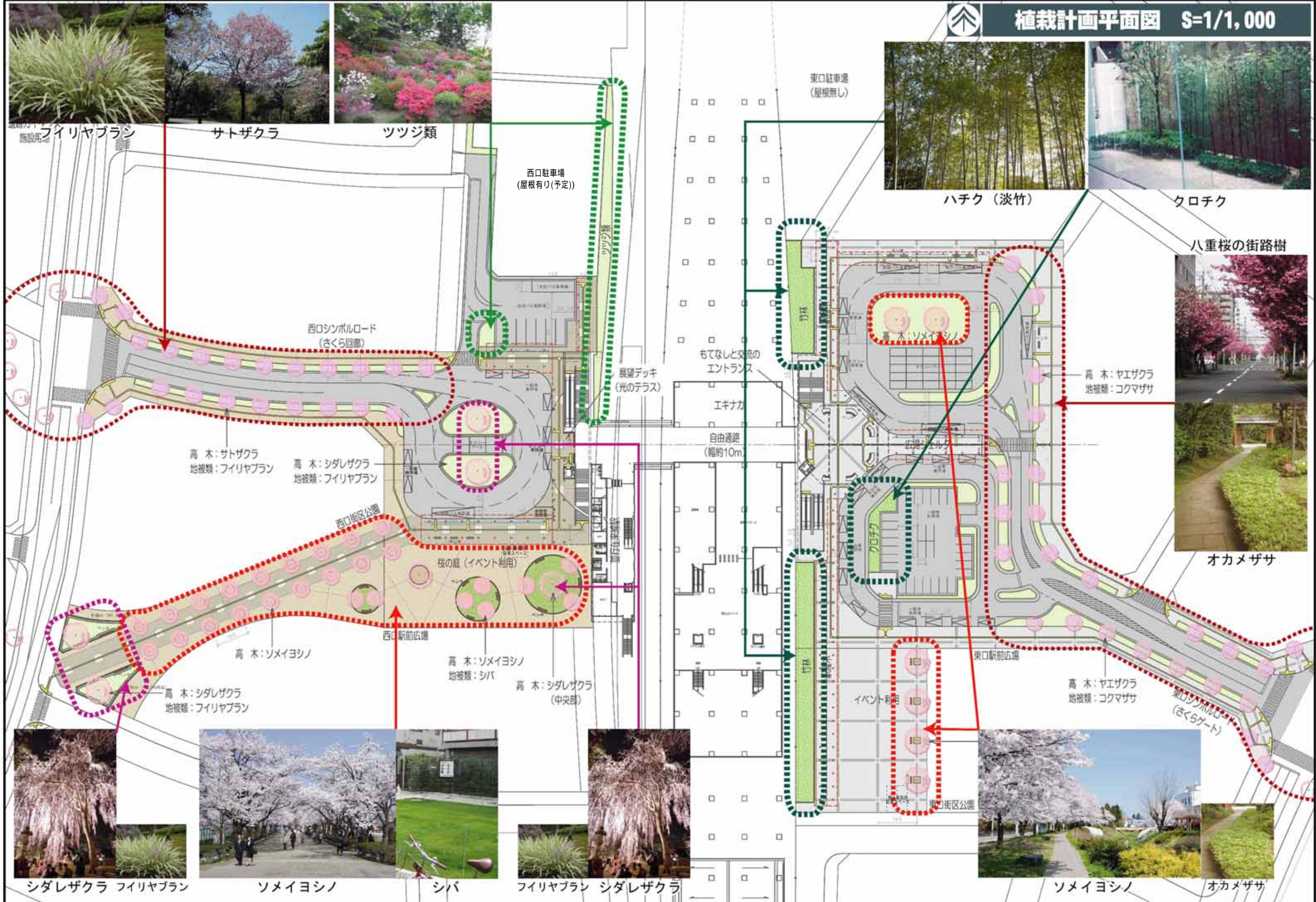
西口鳥瞰イメージ

6. 植栽計画





植栽計画平面図 S=1/1,000



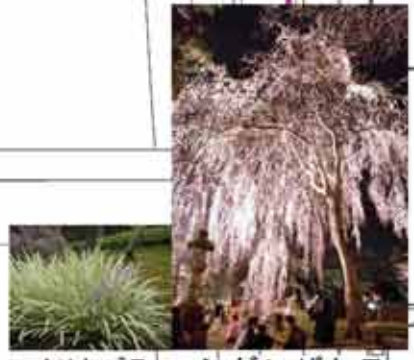
シダレザクラ フィリヤブラン



ソメイヨシノ



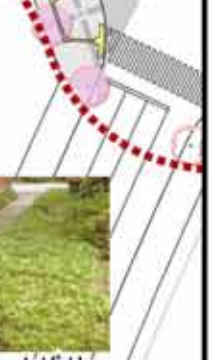
シバ



フィリヤブラン シダレザクラ



ソメイヨシノ



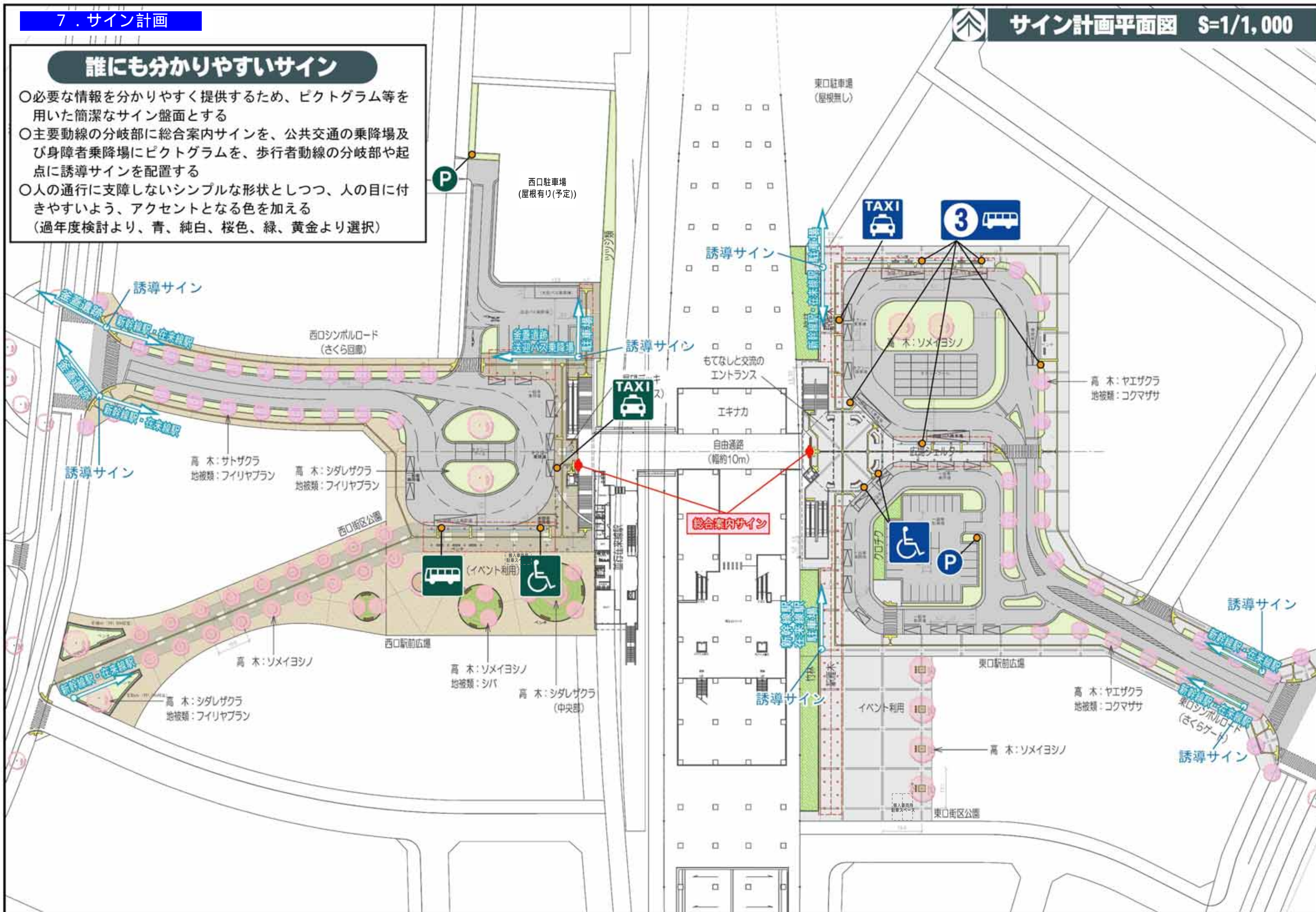
オカメザサ

7. サイン計画

サイン計画平面図 S=1/1,000

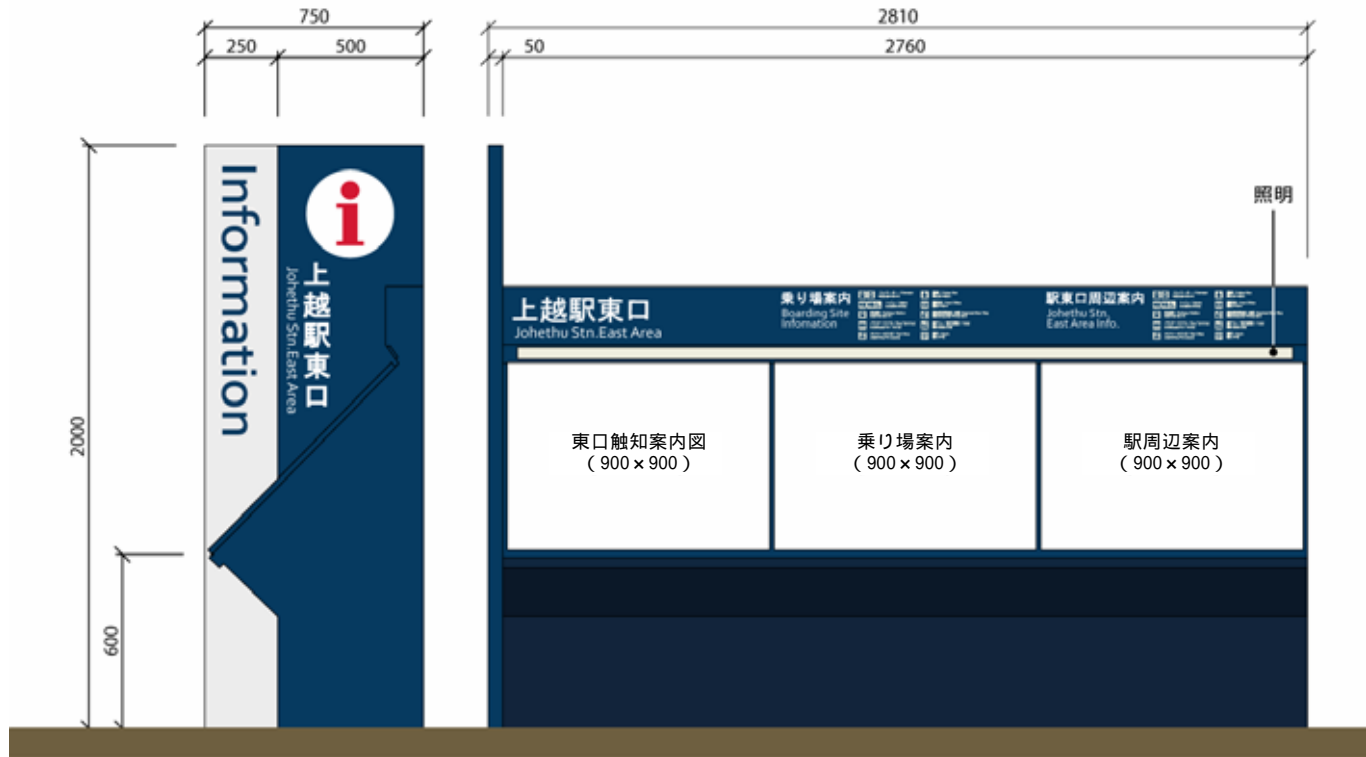
誰にも分かりやすいサイン

- 必要な情報を分かりやすく提供するため、ピクトグラム等を用いた簡潔なサイン盤面とする
- 主要動線の分岐部に総合案内サインを、公共交通の乗降場及び身障者乗降場にピクトグラムを、歩行者動線の分岐部や起点に誘導サインを配置する
- 人の通行に支障しないシンプルな形状としつつ、人の目に付きやすいよう、アクセントとなる色を加える
(過年度検討より、青、純白、桜色、緑、黄金より選択)



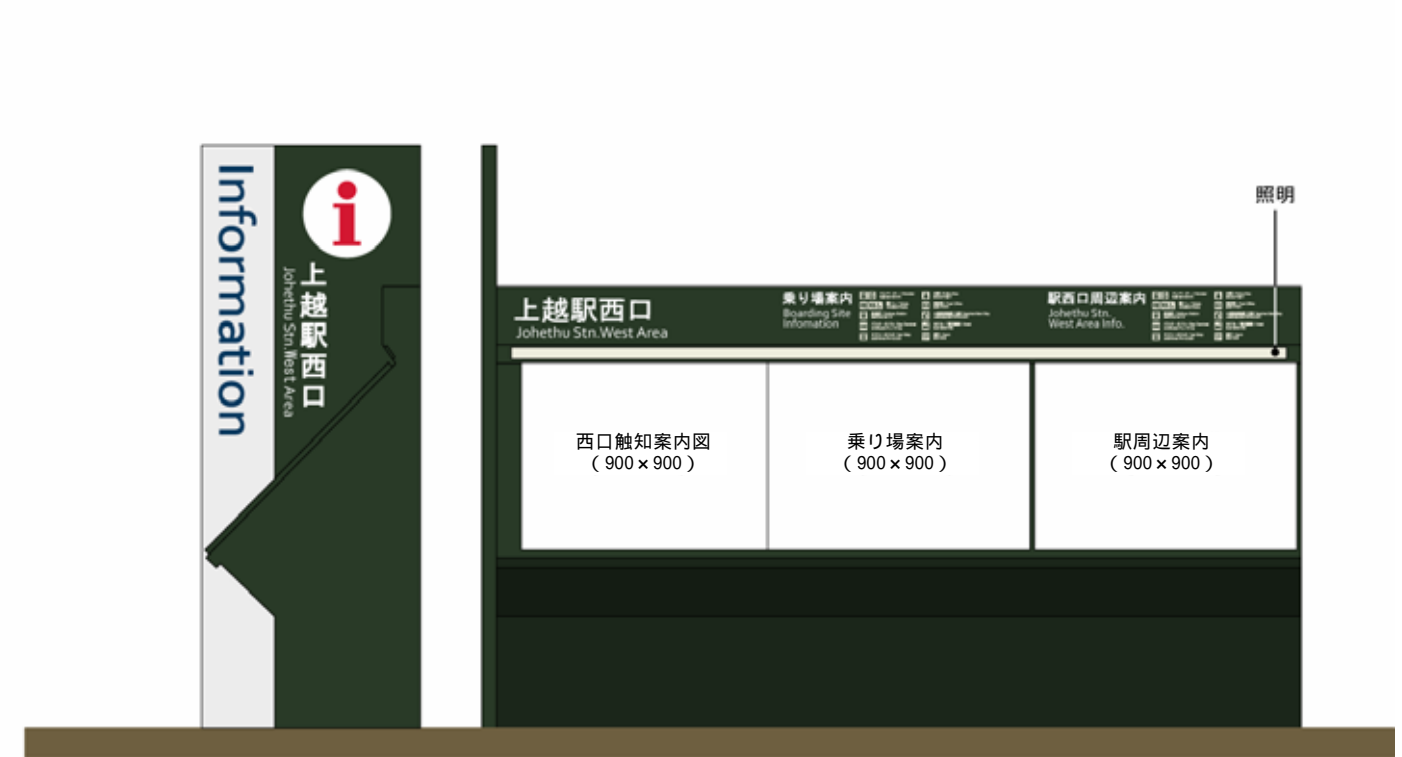
東口サイン姿図

総合案内サイン

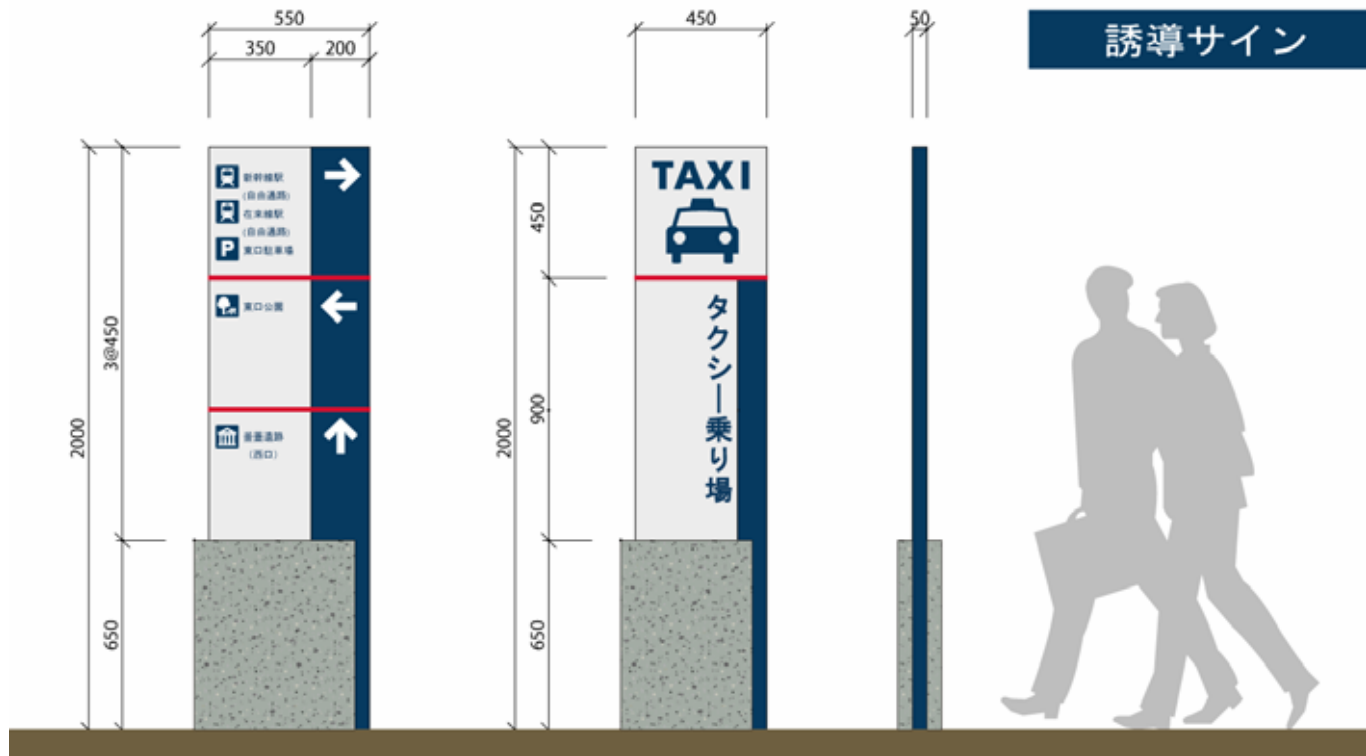


西口サイン姿図

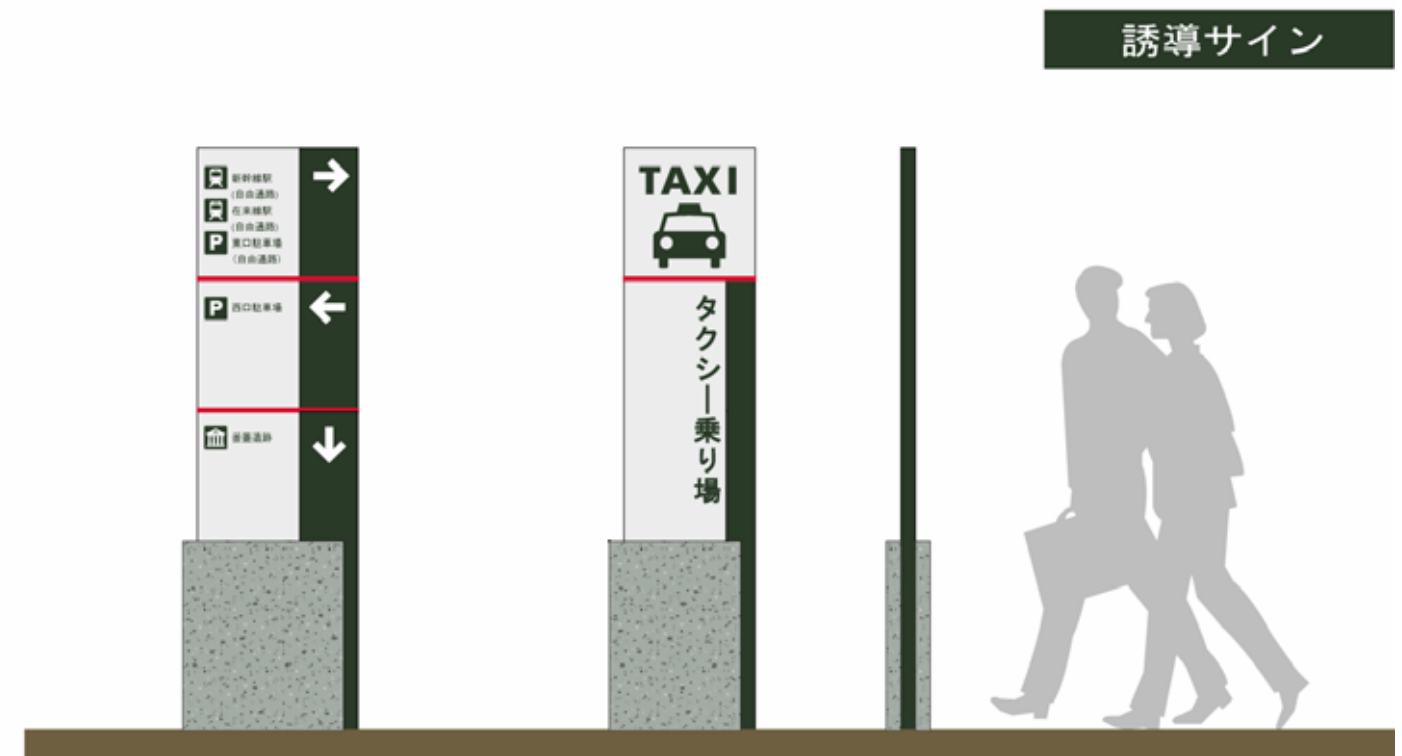
総合案内サイン



誘導サイン



誘導サイン



無彩色を基本とする東口においては、基本色として紺色を用い、無彩色の空間内で人の目に付くよう、ラインなどに赤（紅色）を用いる
サインの足もとには、千草石を用いた修景を行う

アースカラーを基本とする西口においては、基本色として濃い緑（松葉色）を用い、無彩色の空間内で人の目に付くよう、ラインなどに赤（紅色）を用いる
サインの足もとには、千草石を用いた修景を行う

8. 照明計画

ベース照明

駅前空間の利用者（車）の安全性を確保するため、車道の屈曲部や合流地点、歩行者の主要動線上にベースとなる照明を配置する

照明配置は歩車道の境界部への配置が効率的であるが、施設計画より歩車道境界は概ねシェルターが配置されることから、シェルターが配置される場所については広場内の交通島に配置する

シェルターや駅雁木内は天井面へのダウンライトの配置や、天井面を照射するライトアップ照明を配置し、必要な照度を確保する

西口駅前広場のベース照明は、テラス空間（展望空間）からの山並みや桜への視界を阻害しないよう、来訪者の視点より低い位置に器具を配置する

修景用照明

東口駅前広場は、駅前空間の拠点となるドームを美しくみせることを目的とした照明とし、行灯のような柔らかな灯りを確保する（新幹線駅舎側の照明計画との調整が必要）

西口駅前広場は、来訪者に夜桜の美しさを提供するため、シダレザクラを中心としたライトアップ照明を配置する。特にシダレザクラへのライトアップは、近接するシェルターに機器を配置することで、テラス空間（展望空間）からの視点に対して、圧倒的な存在感を演出する



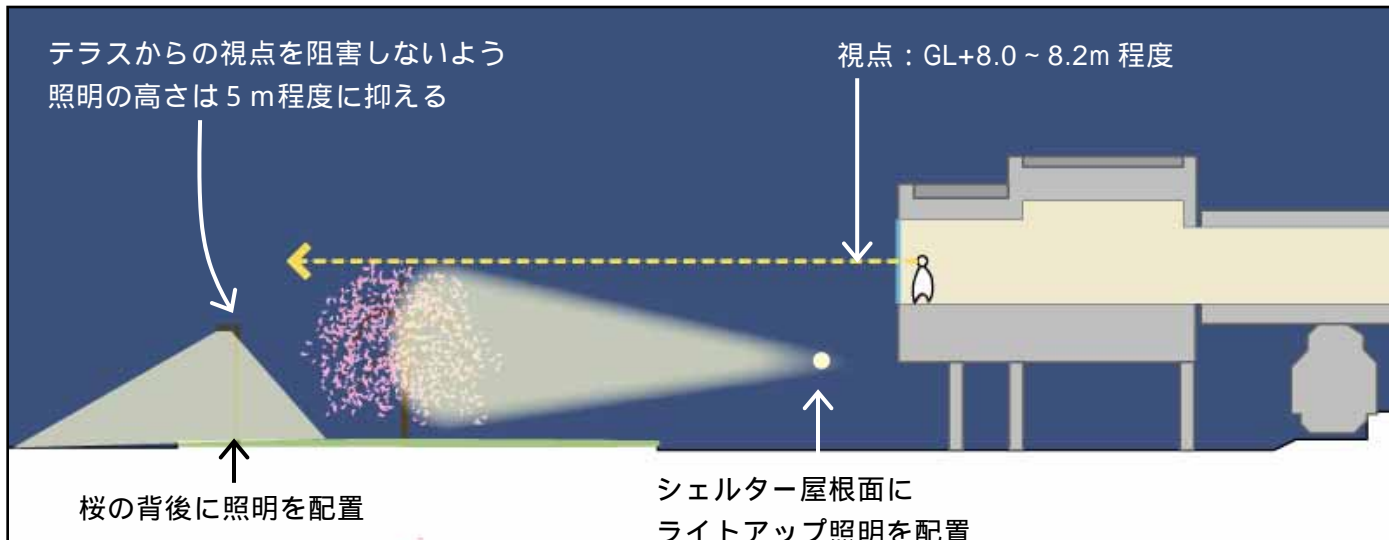
東口ドームの照明イメージ

・行灯のような灯りで、夜景も記憶に残るような空間を形成する

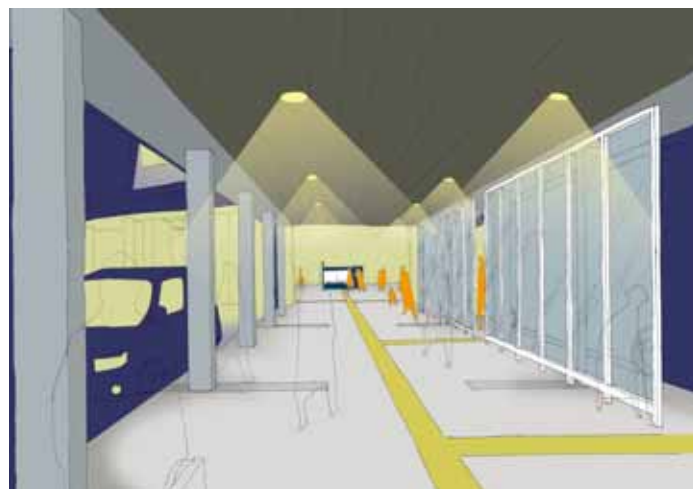


西口テラス空間の照明イメージ

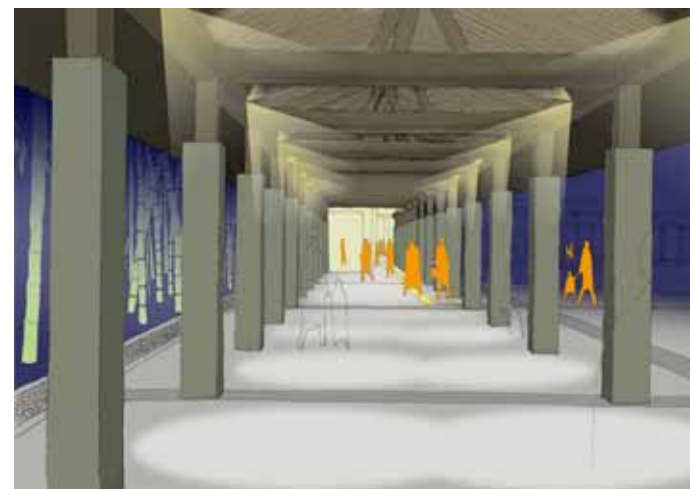
・シダレザクラのライトアップを強調するため、施設自体の華やかなライトアップは行わない



西口駅前広場の照明計画にかかる配慮事項



シェルターA下の照明イメージ



駅雁木下の照明イメージ

- ライトアップ照明 (修景用照明)
- 東口ドーム照明 (修景用照明)
- ベース照明
- シェルター照明 (ベース照明)



西口の主役はサクラ、夜はライトアップにより
幻想的な空間を形成する

東口の主役はドーム
行灯のような柔らかな灯りで
和のイメージを形成

シェルター屋根面からシダレザクラをライトアップ

ソメイヨシノは路面からのライトアップ

